

平成 30 年度（2018 年度）

年 次 報 告 書

分冊：教員の年間活動報告

神 戸 常 盤 大 学

神戸常盤大学短期大学部

目 次

	頁数
1. 保健科学部・医療検査学科・・・・・・・・・・・・・・・・	2～25
2. 保健科学部・看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・	26～58
3. 教育学部・こども教育学科・・・・・・・・・・・・・・・・	59～79
4. 短期大学部・口腔保健学科・・・・・・・・・・・・・・・・	80～95
5. 短期大学部・看護学科通信制課程・・・・・・・・	96～103

1. 保健科学部 医療検査学科 個人年間活動報告書

教員名	坂本秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、ゲノムサイエンス研究ユニット責任者、国試対策委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科:臨床検査入門、医学概論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、細胞培養演習、BLSキャリアパスI、文献講読、遺伝子工学、先進医学検査学I、先進医学検査学II、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、卒業研究 N科:国際保健医療活動I、国際保健医療活動II O科:遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	7.5				
本年度の課題					
時間配分に留意する。 医療・社会動向に対応した、研究活動と教育活動のバランスを保つ。					
本年度の目標					
多彩な学生へのサポート 実学的な研究の実践					
主な活動内容					
1) 教育活動 成績不振者、欠席や遅刻が多い学生に対して個別面談及び電話やメールを通じた指導を行った。特に4年生の国家試験対策では多くの時間を費やし、学生との対話を通じて個々に沿った指導を心がけた。 大学院進学希望の学生に対して早めに個別面談及び、学習指導を行い今年は大阪大学大学院へ2名の進学者となった。 多くの学生が望む将来を実現できるようサポートのためには、卒業できる力を付けることである。今年はじめて4年生になった者は原因ある数名を除いて卒業でき、国家試験合格率も93%と全国平均の75.2%、大学新卒平均の87%も超え、よい成果となった。その一方で、何年も卒業が延期されている者が卒業できず、完全に達成出来たとは言えない。					
2) 研究活動 研究テーマ：Cablesの機能解明、ポイントオブケアテストングを効果的に用いる 研究の現状：「Cablesの機能解明」ではCablesが誘導するアポトーシスではp53を構成する46番目のアミノ酸であるセリンのリン酸化が関わっている可能性を明らかにした。「ポイントオブケアテストングを効果的に用いる」については、ポイントオブケアテストングの精度管理を保つために使用者の教育が重要であることを提唱し、各種学会でその概念を広めた。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					

学会発表（ 6回） 論文（ 6編） 著書（ 0冊）
3) 社会的活動等 日本臨床検査学教育協議会 副理事長、アメリカ臨床病理学会 国際資格 日本諮問委員会 委員長、国際臨床化学連合 C-IDL 委員、日本臨床化学会 理事 国際交流委員長、日本臨床検査医学会 評議員、日本臨床検査自動化学会 評議員 POC 技術委員会 幹事、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、兵庫県臨床検査技師会 理事、第 29 回日本臨床化学会近畿支部総会長
今後の課題
各種業務の効率化を行う。

教員名	栗岡 誠司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個々人情報保護委員会委員長，入試委員				
クラス担任	1年生		クラブ顧問	陸上，サイエンスボランティア，弓道	
担当科目名	検査入門実習、化学基礎、基礎有機化学、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学実習、無機物理化学基礎演習、現代社会と化学、ミニゼミB，卒論ゼミ				
担当科目コマ数	8.4				
本年度の課題					
・ e-learning “learn0” を使った学修支援システムの検証 ・ 思考力を測る入試問題についてのあり方の研究					
本年度の目標					
・ (教育) 基礎化学から有機化学・無機化学へと連携を深め、化学好きの学生を増やす。 ・ (教育) サイエンスボランティアへの学生の参加を促し、学生の社会貢献を図り、コミュニケーション能力を育成する。 ・ (研究) e-learning による学修支援システムのあり方を検証する。 ・ (社会的活動) 国・県・市の各種委員活動を通じての教育分野での社会貢献を行う。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・ 初年次教育の充実					
2) 研究活動 研究テーマ：e-learning “learn0” を使った学修支援活動の実践 研究の現状：卒論生対象に検証中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等					

①文部科学省；スーパーサイエンスハイスクール企画調査委員
②大学入試センター；新テスト実施企画本部実施方法部門化学WG座長
③兵庫県教育委員会；サイエンストライやる事業登録講師
④明石市教育委員会；教育委員
今後の課題
・e-learning “learn0” の充実による学修支援システムの構築 ・卒業研究、講義・実習を通じての能動的学修が行える学生の育成

教員名	安藤啓司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	健康保健センター委員				
クラス担任	2年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	生理機能検査学ⅠB、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学実習Ⅰ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、生理機能検査学実習Ⅱ、検体採取安全管理演習、対人援助技術演習、臨床病態学演習Ⅰ、臨床病態学演習Ⅱ、総合医学検査演習、総合医学検査特論				
担当科目コマ数	10.9				
本年度の課題					
カリキュラム変更に対応して講義内容を取捨選択する。					
本年度の目標					
担当科目に関して本学の学生に与えるべき知識を把握し、それに対応した講義を展開する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 前任校で担当していなかった病態学関連の知識をリフレッシュするため多数の関連図書を入手し講義に臨んだ。					
2) 研究活動 研究テーマ：歩行・走行時の重心動揺 研究の現状：3軸加速度計を腰部に装着し、ランニングマシン上で走行させて重心動揺を測定した。自己相関解析を行ったところ、運動経験と走行の安定性との間の関連性が示唆された。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
教育活動については、おおむね目標が達成できたと考える。研究活動に関しては不本意な成果であったと考える。					

3) 社会的活動等 日本生理学会 評議員
今後の課題
講義内容をさらに充実させる。ゼミ生とともに周期的な時系列データの解析方法に理解を深める。

教員名	畠 榮	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター 委員				
クラス担任	医療検査学科 3年	クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習、医学概論、臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病検査学実習Ⅱ、細胞検査学演習、臨床検査学演習、検査リスクマネジメント論、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、組織学実習				
担当科目コマ数	11.2				
本年度の課題					
・細胞診養成課程の高い合格率の維持 ・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実 ・組織学・臨床病理検査学での Sub Notebook の有意義な活用法の検討					
本年度の目標					
・細胞診養成課程の合格率 100%を一番の目標とする ・解剖学・組織学の Sub Notebook の作成と講義での使用					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・細胞診養成課程の合格率100%の維持を目的とした教育改革： iPadを用いた細胞診教育システム 細胞所見を利内するためには、どのような病理組織所見であるかを理解することが重要と考えられる。そのために病理組織所見との対比ができる症例の充実					
・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実： クラウドを用いた、病理検査学および細胞診断学講義用ファイルの一括管理および臨床病理検査学で使用する講義に即したSub Notebookの作製					
・臨床現場で経験した病理肉眼像および病理組織画像を用いた教育： 臨床現場で蓄積した実際の症例を用いた教育					
2) 研究活動					
研究テーマ： 体腔液による悪性中皮腫の診断基準の作成					
研究の現状： 石綿・中皮腫研究機構・日本肺癌学会での『中皮腫取扱い規約 第1版』の出版を行うことにより、日本での中皮腫細胞診診断に大きく寄与で					

きる。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（17回 講演10回を含む） 論文（6編） 著書（3冊 共著） 3) 社会的活動等 ・独立行政法人環境再生保全機構 石綿健康被害救済部 中皮腫細胞診実習研修会 講師および実務委員 ・中皮腫細胞研究会 副代表幹事 ・日本臨床細胞学会 評議員 ・LBC (Liquid based cytology) 研修会 in 滋賀 実行委員長 ・日本臨床細胞学会岡山細胞検査士会 幹事 今後の課題 学内教育：細胞診養成課程の合格率100%を一番の目標とする。 社会的活動：独立行政法人環境再生保全機構中皮腫細胞診実習研修会で講師として細胞検査士の診断レベルの向上
--

教員名	井本 しおん	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書・紀要委員会委員長、M科就職委員長				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー		
担当科目名	科目責任者：血液学, 血液検査学, 血液検査学実習I, 血液検査学実習II, 臨床病態学II, 臨床病態学演習I、臨床病態学演習II オムニバス：総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、医療安全、検査リスクマネジメント、臨床検査入門、人体のふしぎ、BLSキャリアパスI				
担当科目コマ数	12.0				
本年度の課題					
・国試および就職に向けた学生への支援をさらに充実させること ・研究成果を第2報として論文報告すること					
本年度の目標					
・新カリキュラムで講義回数の減った科目に対する内容の見直し ・学生への個別就職指導の強化 ・研究論文の第2報を英文で論文化すること					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・授業回数が半減した科目への対策： M2血液検査学では、重点項目の要点を講義した。残りは3年次実習で対応予定。 M3血液検査学実習II では、班の共同作業による効率的な実習を工夫した。 ・国試対策：					

特論では、正答率の低かった模擬試験問題の解説、類似問題の演習、共通する弱点を補強する講義、の3本立てで学習意欲を高めて実力を育成するよう心掛けた。 ・就職指導： 模擬面接では時間をかけ聞き取りを行い、自分の持ち味に気付かせるよう努めた。 2) 研究活動 研究テーマ：マクロファージと鉄代謝 研究の現状：研究成果をライフサイエンスセンターの共同研究者と英文学術誌に発表。現在、第2報となる論文準備中。学外共同研究者と好中球を用いた共同研究も進行中。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（2回）論文（30分編）著書（冊） 3) 社会的活動等 兵庫県合同輸血療法委員会委員、兵庫さい帯血バンク理事など。
今後の課題
・国試と就職を両立させるため国試対策委員会や卒研担当教員との連携を強化する ・研究成果を英文で論文発表する

教員名	林 伸英	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員長、遺伝子組換え実験安全委員				
クラス担任	医療検査学科 2 学年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床化学検査学Ⅰ、臨床化学検査学Ⅱ、臨床化学検査学実習、臨床検査学演習、臨床検査入門、医学概論、チーム医療論、検体リスクマネジメント論、医療安全、総合医学検査特論、総合医学検査演習、大学道場miniゼミ、卒業研究				
担当科目コマ数	10.2				
本年度の課題					
1. 学生にわかりやすい授業を行う。 2. 研究活動を充実する。（テーマ別研究・神戸大学病院との共同研究）					
本年度の目標					
1. 学生が講義内容を理解し、わかりやすい授業を行う。 2. 研究活動（テーマ別研究・神戸大学病院との共同研究）を行う。					
主な活動内容					
1) 教育活動 学生が教育活動：臨床化学検査学Ⅰ,Ⅱは、国試対策を意識して教科書にそった授業が必要と考えられる。その反面、平坦な授業となってしまうように動画を使ったプレゼン等を挟み込んでわかりやすい講義になるように努めた。評価されなかった点として、「復習の時間が長いと感じた」「授業スピードを一定にしてほしい」という点は、復習の時間を短くして、授業の予定した到達箇所までの授業の進行のスピードを一定にし、わかりやすく説明が維持できるように心がける。					

2) 研究活動 研究テーマ：膠原病除外のための抗DFS-70抗体の同定方法の研究（テーマ別研究）・抗核抗体検査における全自動分析装置の自動判定能および化学発光試薬の検査効率の評価（神戸大学医学部附属病院との共同研究）を実施し、来年度に継続していく。 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 4 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 学会活動：日本臨床検査医学会 評議員、生物試料分析科学会 評議員 査読：医学と薬学 3 遍
今後の課題
1. 学生にわかりやすい授業を行う。 2. 研究活動の充実：論文作成（神戸大学病院との共同研究）

教員名	栢倉 匡文	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、学生相談室委員、健康保健センター委員、M科卒研委員				
クラス担任	1 年 Bクラス チューター	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習、医動物学・同実習、労働衛生学Ⅰ、免疫検査学、免疫検査学実習、先進医学検査学Ⅰ、検査リスクマネジメント、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：公衆衛生学、疫学的調査法 全学：大学道場 miniゼミA				
担当科目コマ数	13.0				
本年度の課題					
①授業内容の充実					
②研究時間の確保					
本年度の目標					
①受講生の目線に立った分かりやすい授業になるように心がける。					
②研究を発展させる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 授業アンケート結果を真摯に受けとめ、できるだけ多くの受講生の意見を授業に反映させるようにした。例えば、疫学的調査法の授業は今年度で2回目であるが、今回は講義中心から演習中心に変えた。保健師国家試験の過去問を解かせた後、解説を加えるようにしたところ、理解度の向上につながった。授業アンケートの評価も前回（2015年総合評価3.7）より上がり（2018年同4.1）、受講生からの評判も上々で					

あった。教育面での目標はほぼ達成できた。 <査読>神戸常盤大学紀要 1件 <高大連携授業>テーマ：寄生虫の知識を臨床検査で応用する（神戸鈴蘭台高校）。 2) 研究活動 研究テーマ： エピジェネティクスを標的とした潜伏感染 FIV の再活性化 研究テーマの現状：ネコ免疫不全ウイルス (FIV) 治療薬を開発する上では、FIV の感染経過をよく再現でき、エイズ発症阻止を指標とすることが望ましいが、実験感染ネコではエイズ発症まで至らないことが多い。FIV 潜伏感染細胞を用いた試験管内での実験において、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害薬である NaB を 0.5mM の濃度で培地に添加することにより、ウイルスの転写レベルが上がることを既に報告してきたが、ネコに投与する場合、この濃度では毒性による影響が懸念される。そこで、エイズ発症モデルの確立を目的として、ヒト T 細胞リンパ腫の治療薬として用いられている HDAC 阻害薬ロミデプシンに着目し、FIV 発現誘導条件について検討した。その結果、10 nM の濃度において 72 時間後に感染価が 25 倍増大し、この濃度では細胞毒性は見られないことが分かった。今後は様々な HDAC 阻害薬を組み合わせることも考慮に入れ、できるだけ低濃度で遺伝子発現を誘導できる条件を見つけたいと考えている。今年度も研究時間の確保が難しく、成果は殆ど得られなかったが、卒研で得られた結果をもとに研究を発展させていきたい。 専門領域：免疫系感染症学 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（1回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等
今後の課題
授業内容の充実と研究の発展

教員名	松元英理子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会（副委員長）、ときわ教育推進機構、IR推進ユニット、				
クラス担任	なし	クラブ顧問	水泳同好会		
担当科目名	基礎生物、臨床検査入門、生命科学、遺伝子・染色体検査学、遺伝子・染色体検査学Ⅱ、遺伝子・染色体検査学実習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習、大学道場miniゼミB、現代社会と生命科学				
担当科目コマ数	9.9				
本年度の課題					

①新カリで内容を大きく変更する科目があるため、学生の興味を喚起する授業内容と、学生の時間外学習を引き出す受授業方法を工夫する。
②生命科学分野の研究を進展させる。
本年度の目標
①新カリで時間数等の変更がある科目について、内容を精選し、学生の授業時間外学修を促進する授業を行う。
②H29年度のテーマ別研究成果を論文にまとめる。 cyclin D1 の細胞内局在と細胞増殖の関係についてデータを蓄積する。
主な活動内容
1) 教育活動 旧カリ「遺伝子・染色体検査学Ⅰ・Ⅱ（計45時間）の後継科目である「遺伝子・染色体検査学（30時間）」について、カリキュラムのスリム化に対応し内容を精選し更新した。また、manabaを活用して授業外の学修時間を増加させた。
2) 研究活動 研究テーマ：①細胞周期関連因子cyclin D1の機能と細胞内局在に関する研究 ②「ときわコンピテンシー」に基づく履修指導方法の開発 研究の現状：①卒業研究のゼミ生と共に、蛍光免疫染色によるcyclin D1の細胞内局在の解析を行い、細胞の増殖とcyclin D1の細胞内局在との関係を明らかにした。 ②平成29年度テーマ別研究の成果を神戸常盤大学紀要および学術フォーラムで発表した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等 民間救急講習団体 (FAST) 神戸常盤大学の救急インストラクターとしての活動を行った。
今後の課題
①次年度、新カリで新たに開講する科目について、学生の興味を喚起し、学修を促進するような方法を検討する必要がある。
②生命科学分野の研究を、次のステップに進める。

教員名	澤田 浩秀	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員長、遺伝子組換え実験安全委員長、M科卒業研究・学研委員長、M科細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	医療検査学科 4 学年		クラブ顧問	なし	
担当科目名	医療検査学科：生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理機能検査学ⅡB、環境生理学、労働衛生学Ⅰ、大学道場ミニゼミ、医療英語、文献購読、検体採取安全管理演習、臨床検査学演習、検査リスクマネジメント論、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：看護解剖生理学Ⅰ、臨床検査総論、医療機器総論 口腔保健学科：臨床検査学				

担当科目コマ数	9.5
本年度の課題	
1. 研究活動の充実化、2. 外部研究資金の獲得	
本年度の目標	
1、研究課題である“腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究”および“ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発”の研究について結果をまとめ論文作成を行う。 2、科学研究費など外部研究資金の獲得に向けて取り組む。	
主な活動内容	
1) 教育活動 どの科目においても、図表の説明を中心に、特に視覚から理解できるような授業を行った。各科目とも、穴埋め箇所に重要な点を書き込んでいくプリントを配布し、これに沿って授業を行った。授業評価（授業の満足度）に関しては、生理学Ⅰが3.9、生理機能検査学ⅡBが3.8（オムニバス）、環境生理学が3.5、労働衛生学Ⅰが3.8（オムニバス、いずれも医療検査学科）であった。評価されなかった点として、授業の聞きやすさ、授業の進行速度、授業内容の知的関心・好奇心のなさであった。今後も、できるだけゆっくり話すこと、授業内容をわかりやすくまとめることに注意した授業を行うよう心がけたい。 2) 研究活動 研究テーマ：①腸管免疫賦活によるパーキンソン病予防の研究、②ミクログリア活性化制御によるパーキンソン病治療法の開発 研究の現状： 本年度の目標1.については、研究テーマ①の結果を、日本神経科学学会、日本認知症予防学会で成果発表したが、研究テーマ②についてはまだ結果が得られていない。また、いずれも論文作成までは至っていない。 本年度の目標2.については、科学研究費など外部研究資金の獲得には至らなかった。本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 高大連携による神戸鈴蘭台高校模擬授業 2018年10月26日 他に、日本臨床検査学教育協議会評議員、日本認知症予防学会評議員、国立長寿医療研究センター客員研究員	
今後の課題	
1、研究活動の充実化：研究へ費やす時間をできるだけ確保し、研究テーマの内容を論文として発表できるようにすること。 2、科学研究費など外部研究資金の獲得	

教員名	布引 治	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター副センター長、広報委員会委員、細胞検査士委員会、110周年記念誌制作部会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	臨床検査入門、ミニゼミ、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論、細胞検査士養成課程				
担当科目コマ数	8.7				
本年度の課題					
細胞検査士養成教育の充実					
本年度の目標					
細胞検査士試験合格率の維持、合格者数の維持					
主な活動内容					
1. 目標達成に向けた活動内容 教材の充実。授業内容の改良。 前年に続きとして電子教材導入と学修効果向上を目標とした。模擬試験回数を増やし個人に対応したプログラムを実施し、引き続き高い合格率を維持できた。					
1)教育活動 教育成果向上を目的に、模擬試験結果を解析しやすいコンピュータプログラムを独自に開発した。学修成果を見極めることができた。					
2)研究活動 研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析 研究の現状：腫瘍病変における遺伝子変化について検討。細胞診材料のHPV-DNA と遺伝子多型の関連性を研究した。 学会発表（ 回） 論文（ 1編） 著書（ 冊）					
3)社会的活動等 日本臨床細胞学会評議員、同学会細胞検査士委員会委員、同学会施設認定制度委員会幹事 日本臨床細胞学会近畿連合会理事、 兵庫県臨床細胞学会理事 日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会理事 医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）					
今後の課題					
細胞検査士試験対策としての機材と教材の充実。細胞検査士試験高い合格率の維持。					

教員名	鈴木高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構・副機構長、国際交流センター・センター長代理				
クラス担任		クラブ顧問			

担当科目名	免疫学、免疫検査学Ⅰ、免疫検査学Ⅱ、免疫検査学実習、先進医学検査学、総合医学検査特論、総合医学検査演習、労働衛生学、卒業研究
担当科目コマ数	9.1
本年度の課題	各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究・社会貢献活動の推進を目指す。
本年度の目標	国家試験対策問題の研究 論文発表
主な活動内容	1) 教育活動 免疫(検査)学関連講義の新たな組み立てを行い、免疫検査学の国家試験対策用の資料作成を行った。より効果的な国試対策演習問題を抽出するシステムの提案を行った。 2) 研究活動 研究テーマ：研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発 研究の現状：ナトリウムチャネル導入細胞の構築に難航したが、とりあえず、構築に成功したので、今後活性測定を行う段階である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 芦屋市春のサイエンス講座講師
今後の課題	研究の推進と論文発表 学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索

教員名	坊垣 美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員 学科国家試験対策委員 学科カリキュラム委員会				
クラス担任	医療検査学科3年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習 生体物質の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 臨床化学検査学実習 卒業研究 総合医学検査特論 生化学（看護通信制課程）				
担当科目コマ数	11.1				
本年度の課題	新カリキュラムで新たに設置した M3 後期科目「臨床検査学発展演習」の実施、および新カリキュラムで学ぶ学生の学修達成度の確保。				

本年度の目標
「臨床検査学発展演習」が学生にとって好奇心や知欲を喚起するものとなること。 新カリキュラム下の学生、特に最終年度を控えた M3 の学修達成度を確保すること。
主な活動内容
1) 教育活動 ①旧カリキュラムのM2科目を再履修した学生を指導し、全員に単位を修得させた。新カリキュラムで学修するM2、M1生について再試験不合格者に対する補習を実施し、単位修得を支援した。M1必修科目では全員合格したが、M2必修科目では3名が不合格・再履修となった。 ②M3Aクラス担任として、再履修科目がある学生を中心に面談を行い、臨地実習履修要件を満たせるよう学修を促した。その結果全員が臨地実習履修要件を満たし、臨地実習を修了した。 2) 研究活動 研究テーマ：血管内皮細胞と末梢血単球の相互作用に関する研究 研究の現状：血管内皮細胞の共培養によるTHP-1由来マクロファージの血管内皮細胞への分化の定量化を試み、異なった条件における培養による血管内皮細胞への分化の程度を比較検討した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 第 29 回日本臨床化学会近畿支部総会 第 71 回日本臨床化学会近畿支部例会 運営スタッフ
今後の課題
新カリキュラム学生、特に新カリキュラム 1 年目の M3 生に対する国試に向けた学修支援。 旧カリキュラム学生の単位修得支援。

教員名	新谷 路子	所属学科等	医療検査学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員、地域交流センターA委員、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場 miniゼミ、基礎検査学、基礎検査学実習、解剖組織学、病理学、人体のふしぎ、チーム医療論、検査リスクマネジメント論、文献講読、卒業研究、総合医学検査特論、				
担当科目コマ数	9.9				
本年度の課題					
・ 学生の自己学修時間を増加させる。 ・ 研究を発展させる。					

本年度の目標
・ 分かりやすく、授業時間外学修（予習・復習）に意欲がわく授業を構築していく。 ・ 共同研究等発展させ、学会発表および論文投稿に力を入れる。
主な活動内容
1) 教育活動 ・ 病理学・解剖組織学では、まとめプリントを配布し復習を促し、学生の理解の促進に努めた。また、課題プリントにより、定期試験対策を早めに開始させた。 ・ 基礎検査学実習では、レポートの重要項目に関して解説を行い、疑問点が残らないよう努めた。実習の最後には、学生自作の尿検査パンフレットの発表会を行った。 ・ 文献講読では、単に英文の全和訳にとどまらず、抄訳、発表、疑問点の洗い出しを通して、理解が深まるよう導いた。 ・ 卒業研究報告書では、学生の意欲を引き出し英文ABSTRACTの作成を行った。 2) 研究活動 研究テーマ：閉経モデル（卵巣摘出）マウスにおける細胞死誘導に関する免疫組織化学的検討 研究の現状：卵巣摘出マウス（低エストロゲン状態）の胃・腸管上皮細胞のパラフィン切片を対象に、細胞死経路（アポトーシス、ネクロプトーシス、オートファジー細胞死）の誘導を免疫組織化学的に解析中である。今後、さらに他の細胞死マーカーや細胞増殖因子の発現を調べ、細胞増殖と細胞死のバランスを明らかにして行く。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・ 神戸大学大学院保健学研究科客員准教授 ・ 兵庫県立相生高校における臨床検査技師の仕事紹介
今後の課題
教育：学生参加型の授業スタイルを更に工夫する。より分かりやすい配布物を作製する。 研究：研究成果を学会発表および論文発表して行く。

教員名	田村 周二	所属学科等	医療検査科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、				
クラス担任	2年 Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学ⅠA、生理機能検査学ⅠB、生理機能検査学実習Ⅰ、 生理検査学実習Ⅱ、生理機能検査学演習、対人援助技術演習、 まなぶるときわびとⅡ、人体のふしぎ、卒業研究				
担当科目コマ数	11.1				
本年度の課題					
就任1年目の本年度は、各授業内容に十分な充実がなされていなかった点があること、 また学生自身に考えさせる内容が不足していた点が今後の課題と考える。					

本年度の目標
国家試験に基づいた内容の授業を行い、その内容について学生に分かり易く、そして細やかに分解し、かつ論理的に説明が行えるよう指導していく所存である。
主な活動内容
1) 教育活動 常盤大学卒業生に対し、月1回の超音波検査学を中心とした生理機能検査のリカレントオープンカンファレンスを1年間継続してきました。 2) 研究活動 研究テーマ：心臓・腹部・甲状腺・乳腺・婦人科領域・頸動脈などの血管領域エコーなどについて、他の検査データを併せ多数の症例を提示し分析開示する。 研究の現状：昨年8月より開始された上記カンファレンスは現在、多部署から50名前後の方々が来られ熱心に勉強をされ超音波検査士免許の取得にむけて励んでおられる。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 3) 社会的活動等 現在、実施しているリカレントオープンカンファレンスは、超音波検査を基本とした生理機能検査学の講義やハンズオンである。対象は近隣病院に勤める常盤大学卒業生であり、知識や技術の向上だけでなく超音波検査士の免許取得にむけたお手伝いも実施している。これらを継続していくことは、患者さんにとって臨床医に正確で迅速な診断情報を提供することに繋がり、卒業生自身の勉学に対する意識向上へと変化していくものである。また、地域住民への医学的貢献のみならず、近隣病院との関係も深まり就職活動など横への繋がりにも発展していくきわめて重要な社会的活動の一環であると考えられる。
今後の課題
ハンズオンなどを含め常盤大学卒業生の生理部門臨床検査技術指導の充実と、超音波検査士の免許取得並びに育成を引き続き実施していきたい。

教員名	杉山 育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員・臨地実習委員				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ 画像検査学、生理機能検査学演習、卒業研究、特論、検査リスクマネジメント論、臨床検査学演習、人体のふしぎ、生理学と日常生活				
担当科目コマ数	11.3				
本年度の課題					
カリキュラム改正に伴う、新授業施行 研究時間の確保					
本年度の目標					

・生理系授業が大幅に削除され、生理学実習が削除されたカリキュラムの学生に、生理系必要内容を理解させる授業と実習を行う。 ・本年度新授業を良いものにする。 ・入試委員としての役割を遂行する。 ・研究時間の確保を考える
主な活動内容
1) 教育活動 ・M2において、カリキュラム改正で、生理系授業回数と授業そのものが大幅に減ったが、学生の習得すべき内容はほぼ変わらないように行った。しかし、授業が減ることで学生の理解の低下は避けられず、補習を行って理解の確保に努めた。 ・新授業「生理学と日常生活」を行った。日常生活で起こる体の変化を生理学で解きほぐしていく授業である。最終授業では、グループ発表を行い、学生の生理学の興味と意欲が見ることが出来た。 ・M科教員主体で、学生にも参加を促したカンファレンスである「M科学内R C P C」の発起人と運営の一人として貢献した。昨年に引き続き年3回行った。学生からは臨床検査の各分野を繋げて考えるこの会は大変面白かったし、授業にも役立ったとの声が挙がっている。 ・入試委員としての数多くの役割を遂行できた。 2) 研究活動 研究テーマ：スマートフォンがおよぼす身体への影響 研究の現状：予備実験段階である（唾液中の酸化ストレスマーカーを計測）。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・兵庫県臨床検査技師会主催 「腹部・心臓超音波検査ハンズオン」～基本断面の描出と基礎計測を身につける～ についての講師として臨床検査技師の育成に貢献できた。 ・TOKIWA 健康フェア「頸動脈エコー」に参加し、準備全般、臨床検査技師会との連絡、検査者と学生指示で貢献できた。
今後の課題
教育：授業回数が少なくなった新カリキュラムで学生の理解度をアップさせること 研究：スマートフォンの身体への影響を深める

教員名	関 雅幸	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会、医療検査学科臨地実習委員会、情報インフラ整備ユニット 子育て総合支援施設 KIT【キット】学習支援センター てらこや				
クラス担任	4年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	〔医療検査学科〕医療数理科学、情報科学概論、医療工学、医療工学実				

	習、ロボティクス演習、卒業研究、総合医学検査演習、総合医学検査特論 [基盤教育分野] 暮らしの中の物理学、情報基礎、プログラミング入門
担当科目コマ数	10.9
本年度の課題	
医療工学実習での学生レポートの質の向上について対策を行う。	
本年度の目標	
医療工学実習において振り返りノートを導入して、実習時の様子を振り返り、考察を書く際のヒントになるようにする。	
主な活動内容	
1) 教育活動 医療工学実習において振り返りノートを導入した。学生による授業評価で「実習振り返りノートは考察を書く際に役立った。」という質問を設定し回答してもらったが、平均値は2.73であった。 2) 研究活動 研究テーマ：(1)含水鉱物及び含水岩石の電気伝導度測定実験 (2)ロボット作成を用いた情報処理教育 (3)教育活動支援システムの作成 研究の現状：(1)投稿論文が受理され、論文の校正を行った。(2)基礎知識を収集中。(3)4月の大学道場miniゼミの学生振り分けにて作成したExcelマクロを利用した。そのほかに学会発表、論文投稿の準備、次年度に向けてExcelマクロの改善やExcelマクロ利用のためのドキュメント作成を行った。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 3編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 アフレル学び研究所にて、ロボットキット活用事例として電話インタビューを受けたものが掲載された。（【授業実践】現場はある意味「ロボットだらけ」、臨床検査技師を目指す若者の学びをレポート） 2)-3)について課題の残るものもあると考えられるが、概ね評価できると考える。1)については更なる工夫が必要であると考ええる。	
今後の課題	
半年または1年毎等の作業の効率化を考える。	

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員（副委員長）、地域交流センター委員、カリキュラム委員会				
クラス担任	医療検査学科3年Bクラス	クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、薬理と検査、臨床検査学演習、 総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究 BLSキャリアパスⅠ、地域との協働B				
担当科目コマ数	13.3				
本年度の課題					
・ 教育活動、就職支援、地域交流において、学生が考える機会を増やしていく。 ・ 研究活動において、研究中のテーマを進めるよう努める。					
本年度の目標					
教育活動：学生実習、就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマを継続する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 本年度より「BLSキャリアパスⅠ」、「地域との協働B」が開始し、学生自身が考える機会、環境を作る努力をした。学生の自主性を養うために、「学生自身が行動する ⇒ 学生自身が自分を評価する（反省）⇒ 教員が手助けをする」ことに重点をおき、両科目に取り組んだ。 就職支援においては、BLSキャリアパスから就職支援（就職委員会）への繋ぎを考え、途切れのない支援を心掛けた。 地域交流においては、いたやどクリニック協働企画、小豆島合宿に携わった。					
2) 研究活動 研究テーマ： 唾液の臨床検査について 研究の現状： 唾液中sIgA濃度と免疫能、栄養状態について研究を行った。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 兵庫県臨床検査技師会 理事					
今後の課題					
自身が関わる正課（実習、講義）、地域交流、就職支援で、一貫した学生指導（自主性を養う、学生の表現力）を心掛ける。 研究活動において、研究中のテーマを進め、まとめを行う。					

教員名	澤村 暢	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員、図書紀要委員、自己点検評価委員、OSCEワーキンググループ				
クラス担任	4年Bクラス(過年度生)	クラブ顧問	イムノヘマトロジー部副顧問		
担当科目名	血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、医動物学・同実習、病原微生物検査学実習Ⅰ、臨床検査学演習、まなぶる▶ときわびとⅠ、検体採取安全管理演習、細胞培養演習、卒業研究、歯科予防処置演習AⅠ				
担当科目コマ数	15.4				
本年度の課題					
新たに加わる担当科目について学生の興味、やる気を引き出せる講義の進め方を模索する。					
本年度の目標					
学生が体験を通して興味が持てるような演習を行う。					
主な活動内容					
1)教育活動 新たに始まった検体採取安全管理演習では、講義後に検者、被験者を体験させ知識が定着しやすいような授業内容を試みた。 本年度から卒業研究を受け持ち、学生に研究の楽しさと辛さを体験させることが出来た。 2)研究活動 研究テーマ：Fibrinogenノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究 研究の現状：ノックアウト細胞作製し欠損状態の確認作業中。 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 4 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 7/14 神戸常盤大学市民公開講座 講師 10/7 KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ 2018 にて健康チェックを行った。 10/21 兵庫県臨床検査技師会のイベントにスタッフとして参加。 平成 30 年度兵庫県精度管理専門委員会委員 高塚高校での模擬授業					
今後の課題					
OSCE が授業として始まるため、準備を整えスムーズに行えるようにする。 研究データのまとめ、新たな研究テーマの模索					

教員名	北野 悦子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	茶道部		
担当科目名	免疫検査学実習、公衆衛生学実習、輸血・移植検査学実習				
担当科目コマ数	10.0				
本年度の課題					
学生自ら、自分の言葉で表現できていない面が、レポートや就職の小論文で見受けられるので、そこを強化すること。実習が国家試験に繋がっているという認識の強化。					
本年度の目標					
実習をとおして、学生が自ら準備し、結果をだし、結果をプレゼンテーションにより、人に説明する能力を身につける。レポートの提出の徹底と臨地実習に対応できる書き方ができるようにする。実習内容が国家試験対策へつながることへ学生の認識を高める 就職関連では、小論文の指導を強化する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 予習用のプリントや実習内容に沿った国家試験問題の配布し学生の意識を高めた。レポートや小論文添削も力をいれた。					
2) 研究活動 研究テーマ：研究テーマ：①「異常補体を示す症例の解析」 ② 治験に向けての試薬（抗C5薬）の動物実験での効果表現について マウスの補体価測定法（神戸常盤大学紀要1号に記載）を利用して ③「唾液中の補体成分存在について-唾液中の補体成分測定の試み- 研究の現状：①②継続中 ③終了 本年度の研究業績：①について共著で論文に：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等					
今後の課題					
自分の考えを簡潔に、人に理解してもらえる説明能力を身に付けさせること。 またそのための文章作成能力を向上させること。					

教員名	今西 麻樹子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員、M科卒業研究委員				
クラス担任			クラブ顧問	バトミントン部(副顧問) 弓道同好会(副顧問)	
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学ⅡB、基礎検査学実習、				

	生理機能検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、医療コミュニケーション演習、まなぶる▶ときわびとⅡ
担当科目コマ数	10.4
本年度の課題	
教育：新たに受け持つ科目について講義ノート・講義資料の作成、また既に担当している科目についても講義・実習内容のブラッシュアップを行う。	
研究：研究活動をより充実させ、論文発表を行う。	
本年度の目標	
教育：学生の理解が深まるような講義資料の作成および授業を行う。	
研究：データ解析中の研究を論文化する。	
主な活動内容	
1)教育活動 新たに担当した科目は①「検体採取安全管理演習」、②「生理機能検査学ⅡB」であるが、①については、受け持った項目の教科書での記述が少ないため、講義に続く演習に役立つよう資料を作成し、講義に臨んだ。②については、書き込み形式の資料を作成し、また講義の中で問題を解かせるなどの工夫をした。新カリキュラム移行に伴い45時間減となった生理機能の実習は、呼吸機能の検査項目を二年次の生理機能検査学実習Ⅰに一部組込み、三年次の生理機能検査学実習Ⅱでの実習がスムーズに行えるようにした。 2)研究活動 研究テーマ：①膠原病除外のための抗DFS-70抗体の同定方法の研究、②ホルター心電図による自律神経機能の評価 研究の現状：①数種類ある同定方法で測定中、②紀要論文として公表 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 3 編） 著書（ 0 冊） 3)社会的活動等 社団法人兵庫県臨床検査技師会 学術部管理運営研究班班員 KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ、第29回日本臨床化学会近畿支部総会および第71回日本臨床化学会近畿支部例会運営スタッフ	
今後の課題	
教育：実習および授業内容の充実	
研究：研究活動の充実	

教員名	三浦 真希子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、卒業研究委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	病原微生物検査学Ⅰ・Ⅱ、まなぶる▶ときわびとⅠ、 検体採取安全管理演習				
担当科目コマ数	8.1				

本年度の課題
・ 学生が能動的に学びやすい実習環境を工夫する。 ・ 研究時間の確保と研究の推進に努める。 ・ 研究成果を発表する。
本年度の目標
・ 学会発表を行う ・ 実習準備室の環境整備
主な活動内容
1) 教育活動 ・ 学生が能動的に動きやすい物理的環境を整えるため、夏休み等を利用して実習準備室の大規模な環境整備を行った。 ・ 昨年度まで書き込み式であったレポートを、一般的なレポート形式とした。コメントと評価を個人にフィードバックすることで、レポートの書き方の基礎を身につけることができるよう努めた。 2) 研究活動 研究テーマ： ①市販鶏肉におけるESBL 産生大腸菌の分離頻度と分子遺伝学的解析、 ②保育施設における感染拡大防止を目的としたオムツ交換方法について 研究の現状：①解析済み ②保育士へのアンケート調査、オムツ交換による手指・環境汚染調査等を実施中である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 3 回） 論文（ 1編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・ ときわカフェ（子育て支援センター「子育てひろば えん」にて開催）にて、産後～育児中のおかあさん方のヘルスチェックを行った。 ・ 県立芦屋高校にて、医療検査学科・臨床検査技師についてのガイダンスを行った。
今後の課題
・ 引き続き学生が能動的に学びやすい実習環境を工夫する。 ・ 研究成果を論文として発表する。

教員名	溝越 祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員、学生委員、カリキュラム委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	遺伝子・染色体検査学実習、検査入門実習、公衆衛生学実習、免疫検査学実習、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	10.2				
本年度の課題					

・研究成果を定期的に論文投稿できるように、研究テーマの拡充を行う。 ・新規担当実習のレポート評価に関して、ルーブリックを作成し評価体制を整備する。 ・初年次教育も含め、大学入学早期からの学生サポートを充実させる。
本年度の目標
・新テーマの研究を立ち上げ、成果発表をおこなう。 ・新規担当実習科目評価にルーブリックを導入し、具体的な指標による評価を確立する。 ・チューター学生の動向をたどり、早期のサポートを心がける。
主な活動内容
1) 教育活動 ・ルーブリック評価の整備を行い、実習において口頭試問、レポートなどの評価を基準に従い評価できるようにした。また、課題を出すだけでなく、個別に間違えた箇所に対する口頭試問を行うことで、学生に考えを説明させるように努めた。 ・前年度の授業をうけ、学生が苦手な分野に対する講義資料の改善を行い、弱点の強化を行った。 ・担当チューター学生の成績や状況把握に努めたが、面談等対話時間の確保が少なかったことが課題である。 2) 研究活動 研究テーマ：① 新規遺伝子導入細胞セレクションシステムの開発 ② 敗血症マーカープレセプシンの産生機序に関する検討 研究の現状：① 一定の成果を得、学会発表を行った。② 継続中。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等
今後の課題
・今まで出た研究結果をまとめ、論文または学会発表する。 ・学生自身が考え、考えを表現する授業体系を考える。 ・成績が低迷している学生へのサポートを強め、対話を強めることで低迷の原因解明と改善を試みる。

教員名	佐野 太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、地域交流センター、LS細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（顧問）		
担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、臨床基礎検査学実習、臨床検査入門実習				

担当科目コマ数	— (H30助手→H31助教)
本年度の課題	
今年度の研究をさらに進めて行きたい。 引き続き、細胞検査士養成課程の試験対策をより充実させたい。	
本年度の目標	
1. 養成課程のオリジナルテキストの改訂 2. 模擬試験結果を反映した個別問題集の作成	
主な活動内容	
1) 教育活動 病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学実習の準備、レポート、スケッチの指導を行った。 2) 研究活動 研究テーマ：① File makerを用いた学習システムの構築 ② 家族性多発性GISTモデルマウスからの初代培養系の樹立 研究の現状：継続中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 子宮の日ボランティア活動、健康フェスタ、兵庫県健康福祉まつり	
今後の課題	
1. 研究活動時間の確保。 2. 国試対策、細胞検査士養成課程の1次、2次試験対策をより充実させる。	

2. 保健科学部 看護学科 個人年間活動報告書

教員名	鎌田 美智子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長兼保健科学部学部長、学園一体化推進協議会委員、自己点検評価委員会委員長、運営委員会委員、入試合否判定部会委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	【4大】看護学概論、基本看護技術Ⅳ（看護過程）、看護教育論、看護研究方法論、看護研究、課題別総合実習				
担当科目コマ数	5.0				
本年度の課題					
副学長・学部長の立場から、教学運営を把握しつつ、個人の研究活動の比重を高める。					
本年度の目標					
1. 学部教員の教育研究活動への認識を高め、学部運営の効果をあげる。 2. 個人の教育・研究活動の充実をはかる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 授業実践においては、特に「看護学概論」、「看護教育論」において歴史的な側を強化し、看護学の現状を大きな視野（過去←現在→未来）で捉られる様、工夫した。展開においては従来から「難しいけれど心に響く授業」「看護学や看護実践が何を成すべきかがわかり興味関心が高くなった」等や、欠席はほとんど見られないといった学生の反応はほぼ同様。総合評価「4.2」。“看護への興味・関心・探究を導く”という観点はほぼ満たされている 学部運営活動については、一昨年に開始した「学部学科長会議2回／年」を継続。M・N両科のカリキュラム運営や学生指導等の状況を把握し、課題を確認し次年度への充実を考慮できた。さらにM科でも、卒業延期者や退学者への対応に対して、N科が開設時から導入しているチューター制を取り入れ学生個々への学修支援を強化した。さらに入学時の新入生ガイダンスや4年生の卒業研究等に、学部長として所属しているN科だけでなく、M科にも参加し、挨拶やコメントを述べる等を慣例化した また今年度は、学部共通科目の担当者・教科運営等について、I P Eの観点から検討している。					
2) 研究活動 研究テーマ：看護診断、教育及び看護実践における評価等 研究の現状：昨年採択のテーマ別研究『看護学臨地実習科目におけるクライテリア設定とその評価に関する調査研究』を、日本看護学研究会第43回学術集会」（8月）に発表し、この内容は学術論文として、同学会誌に受理（2018 3月）、この研究の継続を行った。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照。 学会発表（1）回 論文（1）編					

3) 社会活動 本学拠点の看護協会「まちの保健室」他
次年度の課題 ＊教育・研究、管理運営のバランスを考慮し、個人研究（これまでのテーマ蓄積の分析により、公表の機会を今よりも高める。 ＊臨床（臨地実習施設）との連携研究の実施。

教員名	長尾 厚子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	運営委員・通信教育委員・看護学科長・通信教育委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	(通学) いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習 (通信) 看護対人関係論・看護と研究				
担当科目コマ数	7.2				
本年度の課題					
1. 基盤教育分野科目「いのちと共生」のときわコンピテンシーの到達度を確認する。 2. 1以外の授業科目の授業内容の精選・授業方法工夫を図る。 3. テーマ別研究の研究活動を実施する。					
本年度の目標					
1. 基盤教育分野科目「いのちと共生」のときわコンピテンシーの到達度を確認する。 2. 1以外の授業科目の授業内容の精選・授業方法工夫を図る。 3. テーマ別研究の研究活動を実施する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ①基盤教育分野での2年目の「いのちと共生」は、受講者数はM科25名、N科81名E科68名、計174名であった。7名の教員のオムニバスでの授業展開であるが評価方法を「毎回の授業内容から得られた知識や、さらに調べた内容」をもとに関心のあるテーマを選んでレポートしその内容を評価した。関心のあるテーマにはばらつきがあった。授業評価のコメントから「毎回異なる内容が面白い」「様々な観点から考えられた」「分野は違うが将来役に立つ内容だった」など肯定的な意見があったが、「人数が多すぎ集中に欠ける」などの意見もあった。ときわコンピテンシーの評価には課題を残しているが、総合評価では秀22%、優64%、良14%であり、おおむね達成できた。 ②「看護対象論Ⅰ」については授業方法として地域ボランティアの方の協力を得て、1年生全員が「模擬患者」との対応場面の体験学習を実施している。学生からの評価は高く、ほぼ全員が「大変良かった」と答えている。臨場感があり、早期の学習として効果的であり、成果はおおむね達成できた。次年度も地域公開講座での「SP講座」を活用して継続を図っていくことが課題である。					
2) 研究活動					

研究テーマ：①対人援助に関する研究 ②看護学教育評価に関する研究 ③2年課程（通信制）の教育に関する研究
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
学科で取り組むテーマ別研究「地域拠点において看護学科が提供するall generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」の研究活動については円滑に実施され、研究成果の発表準備に至っている。また、「看護技術における「相互身体性」の有り様ーハンドマッサージを通してー」については研究成果の発表準備中である。さらに「看護師2年課程（通信制）入学要件短縮に伴う技術教育の在り方の検討」についても研究成果の発表準備中である。
学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
看護協会主催「看護教員養成講習会」講師
今後の課題
1. 担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫をはかる。
2. 研究活動の継続

教員名	岩越 美恵	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教職支援センター委員、看護学科養護教諭課程委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	健康科学総論（N・O）、症候論Ⅱ、養護概説、障害児保育、養護実習Ⅰ・Ⅱ、事前及び事後の指導、教職実践演習、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、医療から見た特別支援、子どもと病気、人体のふしぎ、MiniゼミB、健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ				
担当科目コマ数	7.8				
本年度の課題					
・昨年度に引き続き、発達障害児の個性としてのポジティブな自己認知（受容）に向けた医師の立場からの支援について					
本年度の目標					
・上記課題に対して、診療における支援の件数の蓄積					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・昨年度に引き続き、学生の障害児者に対する意識と行動を変化させることを狙い 当事者やその支援者、家族を授業にゲストスピーカーとして招いた。「障害児保育」「医療から見た特別支援」「miniゼミB」。また後者では、障害継続事業所に出向き、障がいのある人たちと交流を持たせた。					
・卒業研究では、障害児者看護に関するテーマで2名指導した。					

・長田区内障害児者関連施設での学生と共にボランティア活動 ・関心のある卒業生と共に超重度心身障害者在宅の訪問
2) 研究活動
研究テーマ：発達障害児のポジティブな自己受容をめざした診療の実践
研究の現状：取り組んだ症例の蓄積（告知済20名・告知前準備中約42名）
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）
3) 社会的活動等
・西宮市社会福祉協議会「青葉園」の運営委員、NPO 法人青葉福祉会の評議員として定例役員会に出席 ・三木市教育センターにおける教育相談＋三木市健康増進課発達相談（全12回/年） ・NPO法人みどり兵庫（成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席 ・長田区内の障害児者関連施設との交流（くららベーカリー、NPO 法人ウィズアス、（エコール KOBE、WAGOMU）
今後の課題
・今年度は長田区内の交流障害児者関連施設をさらに増やすことができた。今後、それらの施設と交流を続ける中で、様々な障がいのある方々・子ども達・その家族の課題をしぼり、その課題解決のために新たな研究や地域社会貢献活動を具体的に計画（一部実行）する。 ・今年度の研究の継続

教員名	畑 吉節未	所属学科	保健科学部 看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員長、看護学科教授会将来構想・カリキュラム検証委員長				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	在宅看護学概論・在宅看護特性論・在宅援助論・精神看護学概論・チーム医療論・災害看護・大学ミニゼミ・看護研究演習・看護活動基礎実習・健康支援実習Ⅰ・課題別総合実習				
担当科目コマ数	14.5				
本年度の課題					
在宅看護学・災害看護学・多職種連携をはじめ、自らが担当し研究を行っている分野に関して、さらなる研究の蓄積を図り、国内外に発信するとともに、教育内容に反映させる必要がある。					
本年度の目標・方針					
1) 研究成果を論文として外部により多く発信する。					
2) 研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。					
3) 2年目となるSD委員長としての役割を確実に遂行し、活発な委員会活動を展開できる。					
4) 大学内部・関連機関への研究支援を行う。					
5) 活動のエフォートは、教育30％・研究20％・管理運営20％・社会サービス30％					

主な活動内容
a. 目標達成に向けた活動内容（目標ナンバーと対応） 1)15回の学会発表、5本の論文を発信した。外部研究資金は継続中の科研と新たな1つの助成研究に取り組んだ。 2)「災害看護」「在宅看護」の授業や病院研修に、研究の成果を活用し研究と教育との循環を生み出すことができた。特に熊本地震の支援や在宅災害訓練の実際を講義に反映できた。 3)2年目のSD委員会委員長としての役割を計画的に遂行した。また年次活動計画や評価の役割を担った。SD研修以外にも大学での大きなイベントである110周年記念行事・ブランディング事業報告シンポジウム等の広報を担った。 4)在宅看護学、精神看護学の教員との共同研究を学会・論文発表として発信するまでの指導を行った。外部的には、東京都訪問看護連絡協議会との研究の成果報告、熊本県訪問看護ステーション災害訓練指導、とさわ病院在宅支援課開設準備のコメンテーター、神鋼記念病院継続看護検討員会のスーパーバイザー、外部講演・関連学会のシンポジスト、全国レベルの講演会を合わせ10回と関連機関からの依頼に応えた。 5)計画したエフォートにほぼ配分した活動を行えた。 b. 教員としての主な活動内容 ・教育活動 [授業評価]単 独 科 目 :在宅看護概論4.5 / 災害看護4.7 オムニバス科目:在宅看護援助論3.7 / 在宅看護特性論4.4 / チーム医療論4.0 [健康支援実習Ⅰ] 1年目の教員への授業案指導・実習指導を計画的に行う。在宅看護の実習のルーブリック評価を検討した。 ・研究活動 究テーマ:「災害看護教育プログラムの開発」「訪問看護ステーションの災害への備え」「地域連携室の退院調整看護師が担った学生への学習支援」 研究テーマの現状:テーマごとに研究の全体像を描き、計画的に研究を遂行している。 専門領域:看護教育方法論の開発・評価、看護対人技能、災害看護、在宅看護、多職種連携 ・本年度の研究業績 [科研] ①基盤研究C(研究代表者):災害時ハイリスク在宅療養者に持続可能な在宅ケアを提供する基本モデルの構築2/4年目 ・学会発表(15回) 学術論文(5編) 著書(冊) [講演・研修会講師・シンポジスト] ①在宅の特性を踏まえ訪問看護ステーションの災害の備えをデザインする／笹川記念保健協力財団 看護研修会in東京 在宅看護と災害。 ②災害の基礎知識と多職種連携による災害時の備え／大阪市保健所主催招致講演:「医療的ケアが必要なこどもの在宅療養支援 における災害時の備えと多職種連携。 ③後輩の学びと成長を育む指導力／川崎病院看護部研修。 ④ナラティブ 看護を語る／兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院看護部研修。 ⑤看護・介護職に求められる接遇マナー／特別養護老人ホームときわ職員研修。 ⑥訪問看護師から見た在宅臨床検査／第65回日本臨床検査医学会学術集会【招致講演】

⑦対人援助職に必要な接遇・マナー／あそか苑 講演会.
⑧継続看護の理念と概念/神鋼記念病院 継続看護検討委員会主催.
⑨看護を語る意味／川崎病院 卒二研修.
[学会活動]
・日本看護学会 論文選考査読委員、優秀論文選考ワーキンググループ委員
[研究・活動支援]
【研究指導】
①在宅看護学領域教員への学会発表・論文作成指導
②精神看護学領域教員への学会発表・論文作成指導
③訪問看護事業団研究助成の共同研究(東京都訪問看護連絡協議会)の指導
④熊本市訪問看護連絡協議会の研究指導
【活動指導】
①熊本県訪問看護ステーションでの災害訓練の指導
②神鋼記念病院の継続看護検討委員会のスーパーバイザー
③ときわ病院の平成31年4月開設予定の在宅支援課の開設準備コメンテーター
次年度の課題
1)研究成果を論文として外部により多く発信する。
2)研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。
3)SD委員長として3年目の役割を確実に遂行する。
4)大学内部・関連機関への研究支援を行う。

教員名	柳本有二	所属学科等	N科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会 副委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	健スポⅠ,Ⅱ,Ⅲ. 運動生理学. 学校保健. 基礎ゼミ. 医療と安全 医療と安全				
担当科目コマ数	8.2				
本年度の課題					
授業における学生の自主的な活動の検討					
本年度の目標					
1. 学齢期におけるノルディック・ウォークの普及 2. 介護予防プログラムの開発・研究 3. 認知症研究					
主な活動内容					
1) 教育活動 学習の連続性を導くため授業ノートを作成し, 毎授業始めに前回の授業ノートから特筆事項を紹介した. また, グループを作り, 討論をできるようにした. スポーツの歴史からニュースポーツのあり方を考え, ノーマライゼーション的な身体活					

動について検討した。
健スポでは、歩数計を活用したため、受講生が運動量を把握できた。そのことが、学生の学習を喚起したと思われた。また、新しくシナプコーディネーショントレーニングを取り入れ、脳の活性を促した。
2) 研究活動
研究テーマ： マインドフルネスウォーキングの効用について
研究の現状： 自然環境下と騒音下において、マインドフルネスウォーキング時の脳波の相違について解析した。
本年度の研究業績： 詳細は「研究実績報告書」を参照
マインドフルネスウォーキングによるストレス軽減について
学会発表（ 3 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
日本ウォーキング協会全国スキルアップ研修会 講師 主催：（一社）日本ウォーキング協会 他 講演 20 本、テレビ等出演：テレビ東京系「それダメ！新常識」
今後の課題
日本ウォーキング学会会長として、全国にウォーキングの健康づくりを普及していく。

教員名	生島 祥江	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、個人情報保護委員、看護学科臨地実習委員会委員長、看護学科就職委員会委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、リハビリテーション看護論、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、看護研究				
担当科目コマ数	19.6				
本年度の課題					
グループワーク授業での学習成果をあげる。 学生が実践できるための事前準備ができるよう臨地実習指導に関わる。 研究活動では、授業に対する学生の意見・感想をまとめる。					
本年度の目標					
授業では、グループワークの成果発表後の学生同士の意見交換を活発にして学びを共有するよう関わる。 臨地実習指導では、実践するための事前準備を学生と共有できるよう関わる。 研究活動では、収集したデータを解析する。					
主な活動内容					

1) 教育活動 授業でのグループワークの発表後は、討論して学びを共有する授業展開ができず、昨年と同様、manabaや発表ポスターに貼る付箋で意見・感想を伝えるにとどまった。臨地実習指導では、事前に翌日に向けての学習内容を確認しながら進めていき成長が見られたが、学生が準備内容を理解できていないと思われる場面にも遭遇した。 2) 研究活動 研究テーマ：慢性病患者の看護過程においてDVD教材を用いた学習効果 研究の現状：データ収集・分析 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 兵庫県看護協会「まちの保健室」ボランティア 今後の課題 授業では、学生全体が参加した討論の機会を設け学びの共有を図る。 臨地実習では、事前準備を整え、1回性の場面で学生が実践できるように関わる。 研究活動では、現在の研究成果をまとめ学会等に報告する。

教員名	山崎麻由美	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員会（委員長）、学生委員会（副委員長）、百十周年記念誌編集員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	英語同好会		
担当科目名	英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、医療英語（医療検査学科）、医療英語（口腔保健学科）、文献講読（看護学科）、大学道場miniゼミA、英語B				
担当科目コマ数	10.9				
本年度の課題					
英文学・文化研究の資料を収集し、学会発表と論文執筆を行うこと					
本年度の目標					
①学生が授業に能動的に向かい合うような取り組みを実施する。 ②19世紀イギリスにおける医療・看護についての研究を進め、発表する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ①学生の自律学習を促すような授業内容を検討し、補助教材やmanabaを用いて学生が能動的に学習に取り組むように努めた。 ②授業外で英語の学習会を定期的に開催し、学生たちを指導した。					

③大学院進学希望者達に英語の指導を行った。 2) 研究活動 研究テーマ： ナイチンゲールとクリミア戦争、19世紀イギリス女性と専門職 研究の現状：論文執筆中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等
今後の課題 ①授業評価をもとに授業の改善に取り組むこと。 ②19 世紀イギリスの医療・看護と女性の専門職についての資料を収集し、論文執筆に取り組むこと。

教員名	尾崎 雅子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、教務委員（副委員長）百十周年記念誌編集委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習（看護過程）、課題別総合実習、看護研究 大学道場miniゼミA、医療と文化（E科）				
担当科目コマ数	17.8				
本年度の課題					
・学修の視点（評価の視点）が学生と共有できるような工夫を継続して検討する。 ・技術教育における学生の変化について経年的に追えるように取り組んでいく。					
本年度の目標					
・学生の主体的な学習に向けた工夫（学修目標や評価の明確化、学修成果の意識化） ・技術教育における学生の変化について2年臨地実習後の体験を研究課題として進める。					
主な活動内容					
1) 教育活動 昨年度と同様に学生自身が主体的に取り組めるような工夫を行った。日頃の学習が評価に反映されるように評価の視点を学生に提示した。また「基本看護技術Ⅰ（共通・生活援助）」では必ず押さえてほしい内容を「基本動作」という用語で示し、学生と教員が共通理解できるようにした。そして授業の最後に自己評価してもらうことにより、学修成果が意識化され、次への課題も明確になったと思われる。					
2) 研究活動 研究テーマ：1) 技術教育における看護学生の情意領域の変化（2017テーマ別）					

2) 子育て中の母親のストレスに対するアロマセラピーの効果 (研究ブランディング事業A) 研究の現状：1) 学術フォーラムで発表後、論文執筆。次年度投稿予定。また経年的変化として臨地実習においての体験をパート2としてデータ収集・分析中。 3) データ収集が完了し、今後分析予定。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点）ボランティア ・高校生へ向けての授業（高大連携） 今後の課題 教育活動は今年度の内容を継続し、低学年から意欲を喚起させるよう工夫する。 研究活動はデータ収集まで終えた課題があるので、論文作成に取り組んでいく。
--

教員名	庄司靖枝	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員（副委員長）、KTU研究開発推進委員、 子育て支援センター「えん」（副委員長）、臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論, 看護対象論Ⅴ（小児）, 小児援助論, 母子支援実習Ⅰ 看護活動基礎実習, 課題別総合実習, 看護研究, 大学道場miniゼミA				
担当科目コマ数	17.9				
本年度の課題					
（教育活動）子どもと触れ合うことが少ない学生が子どもに対して興味・関心を持ちコミュニケーションできるように、園児の協力を得て演習を行う。 （研究活動）「小児看護学における短期間の臨地実習の検討」に関するさらなる分析、論文にまとめる。「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」をさらに、演習に加わった卒業生から調査し、卒業生にも意義が見いだせていたのかの調査、分析を行う。					
本年度の目標					
学生の小児看護の実践力を養うための効果的な演習・講義の見直しと構築 「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」（テーマ別研究）と小児看護における効果的な演習の調査研究					
主な活動内容					
1) 教育活動 母子支援実習Ⅰを効果的に行うために、臨床で働く卒業生と協同し、病院とのユニフィケーションを考えた演習の構築（小児援助論） 子どもとの関わりが少ない学生に対して園児の協力を得た演習の構築（対象論Ⅴ）					

2) 研究活動
研究テーマ：1「地域活動拠点において看護学科が提供するAll Generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」（テーマ別研究）、2小児看護における効果的な演習
研究の現状：1は上記の構築に向けた調査中である。2は 小児看護（対象論Ⅴ、小児援助論）の効果的な演習を行うための調査研究を行い分析している。
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
兵庫県看護協会「まちの保健室 子育て支援」（6/9、3/2）ときわんモトロク・KIT における子育ての講演（4/18、11/20）、感染症の講習 KIT（9/4）
神戸大学周産期センター「かるがもの会」に学生と参加、共同企画も行った（9/16）
小児がんの子ども親の会のクリスマス会に学生とボランティアで参加（12/16）
今後の課題
本学附属幼稚園の協力を得て行った演習（対象論Ⅴ）の効果について分析と内容の精練 卒業生参加の演習における臨床とのユニフィケーションを考えた研究の分析と実施

教員名	鵜飼 知鶴	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員 臨地実習委員 就職委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護特性論、在宅援助論、健康支援実習Ⅰ、看護活動基礎実習、課題別総合実習、看護研究 ミニゼミA				
担当科目コマ数	15.9				
本年度の課題					
教育活動：在宅援助論の授業の改善					
研究活動：研究成果として論文による発信					
本年度の目標					
教育活動：プロジェクト学習を取り入れた在宅援助論の授業・演習を組み立てる。					
研究活動：地域連携実習での学びに関する研究の継続を実施し、学習支援の構造化を目指す。					
主な活動内容					
1)教育活動					
在宅援助論において3人の教員でオムニバスになるために指導案の検討会を実施した。看護計画立案に関する思考過程においては、ルーブリック評価表を提示し学生が主体的な学びができるようプロジェクト学習の手法を用いて演習を進めた。					
2)研究活動					
研究テーマ：地域連携実習における学習支援の構造化、訪問看護師と療養者のストレスに関する研究					
研究の現状：データ分析、過去の発表分に関する論文作成					

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 4 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 兵庫県看護協会「まちの保健室」（本学拠点） TOKIWA健康ふれあいフェスタ 兵庫県立東灘高校（高大連携）「看護とは」講師 大学広報活動として業者説明会及び高校へ6回訪問し看護学・神戸常盤大学の説明を行った。
今後の課題
教育活動:在宅援助論に関する講義内容の精選とルーブリック評価表を効果的に使用し学生が主体的に学ぶことが出来るよう工夫する。健康支援実習Ⅰでは、学生の学びが深化できるように事前学習の確認を効果的に行い個別事例への状況に応じた看護展開ができるように工夫する。 研究活動：昨年度から継続している地域連携実習に関する研究の学会及び論文発表等により研究成果を発信する。

教員名	魚崎須美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	就職委員会 委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	地域看護学概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、看護活動基礎実習、看護研究				
担当科目コマ数	16.1				
本年度の課題					
学生の学修に支障をきたさないように、前任者からの引継ぎを円滑に進行する。					
本年度の目標					
①保健師課程選択者が全員国家試験合格できる。					
②保健師として就職を希望する学生が、希望するところへ就職できる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 保健師養成課程の統括として、本学の理念に基づく教育展開を心がけた。					
2) 研究活動 研究テーマ： ナイチンゲール文献から見た公衆衛生看護の本質 研究の現状：徳島文理大学看護学研究科博士課程に在籍し、金井一薫教授の指導を受けながら研究を進めている。					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					

3) 社会的活動等
・兵庫県主催「平成30年度地域ケアの総合調整研修」、助言者
・兵庫県看護協会主催「高めよう！中堅ナースの看護の力～もう一度生活過程の視点を見直してみませんか～」、ファシリテーター
・第32回日本看護歴史学会 テーマセッション「直筆を通してこそわかるナイチンゲールの実像-ナイチンゲールの8つの顔-」、司会
・兵庫医療大学地域交流プロジェクト「ナイチンゲールの『看護覚え書』を読む」、講師
今後の課題
本学の理念に沿った保健師養成課程の運営を円滑に進め、専門職として社会に貢献できる保健師を輩出する。

教員名	黒野 利佐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流委員・国家試験対策副委員長・就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	英語同好会・陸上部		
担当科目名	国際看護活動論・国際医療活動論II・看護技術 II/IV・活動基礎実習・看護研究・課題別実習・生活健康援助論				
担当科目コマ数	16.7				
本年度の課題					
・ 国家試験対策における成績低迷者に対するきめ細やかな個別の支援 ・ 多文化共創の研究並びにフィールドとしての地域との交流 ・ 生活健康論の授業において学生が講義の主旨を理解して積極的に関わっていない					
本年度の目標					
・ 看護師国家試験全員合格 ・ 多文化共創研究プロジェクトの立ち上げ、もしくはその準備を整える ・ 生活健康論における講義の主旨、生活における健康を自分たちの生活を振り返りながら生活改善を図りながら悩みの改善プロジェクトを立ち上げ自主的に考え改善計画から実践、評価まで発表できる。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
a.基礎看護技術演習の授業は、本年度で4年目、講義の担当にも加わり技術演習指導も、参考書や視聴覚教材など補充しながら昨年よりは、知識も技術面でも工夫しながら教えることができた。					
目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった					
b. 教員としての主な活動内容					
・ 国家試験における成績低迷者に対するきめ細やかな対応は昨年と同様、特に 11 月後半から始めた。 1 2 月の初旬の模試に至っても成績が低迷していた 18 名の学生のうち 17 名が春からの特別講座の出席率で 7 割以上から 10 割と真面目に学習していたにもかかわらず					

らず、基礎学力がないため、暗記に頼った詰め込み式の学習方法で知識を応用する問題に躓き成績が伸び悩むという特徴があった。年度末が迫る中、生理解剖の基礎、または物理の基礎から丁寧に何度も復習し基礎的な用語の欠落なども補いながら個別な関わりでできる限り丁寧な支援を行った。こうした要支援の学生には低学年からの対処が求められるが、そうした学生ほど基礎学力の不足を問題視しておらず、最終的に成績低迷で支援していた学生の中で一人の不合格者を出し、全くノーマークだった一人の学生、そして辛うじて卒業が許可されるレベルの不勉強な学生の三人が不合格となってしまった。

看護技術IIでは、メンバーが昨年までの6人から5人に減り、教員一人当たりの学生数が増えたことに加え、メンバーの編成があり、これまでの通り満身創痍で学生個別に密にかかわれる技術の授業・授業外のサポートができたとは、言い難い。学生による授業評価は辛うじて4.0以上をクリアしたが昨年よりは低い結果に終わった。

生活健康論では、参考書と講義内容を受けてグループで生活行為についての要点をまとめる復習を各授業の初めの30分を使って行ったり、生活改善プロジェクトもグループで発表を競わせたりして、積極的に授業に参加した学生には大変評価が高かった。しかし、要点だけ、試験問題に直結した安易な答えを求める学生には、課外の時間で集合する時間や、課題にかける時間が長すぎると大変不評で、全体として授業評価はまたも、4.0に届かなかった。生活の生命維持の説明に解剖生理の説明が長く資料としてもそれしか残せていないくらいがあるのは、否めないため、資料を編成しなおす。

尚、昨年から国際看護の出張講義を依頼された平成淡路専門学校から、本年度は講義回数をさらに二回増やして（90分授業計6回）依頼を受け、10月～11月に講義を行った。

2) 研究活動

研究テーマ： 在留外国人の生活支援研究

研究の現状：2018年度の学科研究サポートとして『Diversity の観点からアプローチする神戸長田及び近隣地区の在日外国人の生活支援に関する実態調査研究』ということで申請したが、採択されなかった。しかし、2019年度以降もこの観点からの研究は必要であるので、長田区で震災を機会に活動を始めた多言語放送のFMYY NAGATAを通し、大学のPRも含め、一度目は志願し、二回は話を聞いたパーソナリティに出演依頼を受けて多文化共創構想について意見を交換することが出来た。また本年3月30日こうした交流を通じて在留外国人の特に留学生に低廉な価格で宿泊施設を提供しつつ日本の生活への適応支援を行っているNPO法人、ONESELFとつながりが出来、その宿泊施設におい第一回国際保健室を立ち上げた。今後の活動につながる基盤が出来たといえる。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（ 1回） 論文（0編） 著書（0 冊）

3) 社会的活動等

・研究活動

研究テーマ：医療社会学的テーマから国際保健まで多岐にわたる 特に今年は在留外国人の生活支援というテーマで様々な関連機関と交流し事業が開始できた。

研究テーマの現状：医療社会学研究は、月二回の定例会に三分の二程度参加し、様々なト

ピックスにアンテナを張っている。多文化共創研究では参考文献を時々集め、2019年度のテーマ別研究の共同研究に、濱田学長初め、共同研究者の協力があり、再度趣を変えての研究申請を行うことが出来た。 専門領域：国際看護 本年度の研究業績： テーマ別研究・ジョイント研究・科研・その他の外部資金（ ） ＜研究テーマ： 都会から移住してへき地で勤める看護師の学びのプロセス研究＞ 学会発表（ 1 回） 学術論文（1 編） 著書（ 冊） ・社会的活動等 キットにおける健康相談 まち保 ・灘高等学校・灘中学校における土曜講座講師依頼を受けて 10月6日「ADHDからHIV-AIDSそしてdrug over dose death疫病まで～“病”を経済・社会的側面から診る」のテーマで講演 ・多言語放送のFMYY NAGATAを通し、大学のPRも含め、一度目は志願し、二回は話を聞いたパーソナリティに出演依頼を受けて多文化共創構想について意見を交換することが出来た。
今後の課題 ・国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援＊ ・生活健康論の講義内容の工夫、もっと多くの学生に講義の主旨が理解できるための講義づくり ・多文化共生もしくは在留外国人の生活支援を、長田区や兵庫区の地域と関連施設をフィールドにアクションリサーチを続行する ・3年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続） ・複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営（継続） ・臨地実習における実習目標達成の為に学生の個別性を考慮した効果的な実習指導（継続） ・SD委員会委員としての活動（学科内FD活動の計画立案から実施評価）（新規） ・科学研究費最終年度の為に、停滞していた研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果の公表活動

教員名	島内 敦子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、就職委員会（副委員長）、ハラスメント委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、母子支援実習Ⅲ、課題別総合実習、大学miniゼミ、看護研究演習				
担当科目コマ数	26.9				
本年度の課題					

① 講義内容の精選
② 神戸大学周産母子センター開催「ハッピーかるがもの会」の協働企画の充実と内容の拡大
本年度の目標
① 講義内容の工夫と学生の主体的な学修支援を行う
② 学生主体の協働企画の内容を吟味し、充実を図った。
主な活動内容
1)教育活動 母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけ、学生が母性の対象や個に応じた看護援助について学習できるように講義、演習内容の充実を図った。その一環として、分娩期・産褥期の演習に4年生に依頼し屋根瓦教育を行い、効果を検証する。 学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的な学ぶ方法や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。 2)研究活動 研究テーマ：母性看護学における屋根瓦教育の効果 研究の現状：研究倫理審査届出 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（1回）論文（1編）著書（冊） 3)社会的活動等 ①甲子園短期大学 性教育講義 ②高大連携 明石南高校授業 1回（性教育） ③高大連携 神戸鈴蘭台高校授業 1回（性感染症）
今後の課題
神戸大学周産母子センター「かるがもの会」の充実を図るとともに、同様の内容を実習病院にも開催できるような基盤を構築する。 授業内容（特に屋根瓦教育）の効果についての検証を続けていく必要がある。 今後、離島に住む妊娠から子育て期にある女性への援助について検討する。

教員名	山口 有美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員、危機管理委員会委員、大学親睦会				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なしを		
担当科目名	看護活動基礎実習、基本看護技術Ⅰ、生活健康論実習、miniゼミB、 基本看護技術Ⅱ、基本看護技術Ⅳ、基礎看護学実習、課題別総合実習、 看護学研究、医療経済学				
担当科目コマ数	23.1				

本年度の課題
①2年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続） ②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営（継続） ③臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導（継続） ③SD委員会委員としての活動（学科内FD活動の計画立案から実施評価）（新規）
本年度の目標
①2年生のクラス担任（責任者）としての学生の学習面と学生生活のサポート ②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営 ③臨地実習における実習目標達成のために学生の個別性を考慮した効果的な実習指導 ④SD委員会委員としての活動（学科内FD活動の計画立案から実施評価）
主な活動内容
1) 教育活動 ①年度当初の4月～5月にかけて担任である2年Aクラス全員と学習面、学生生活面について個別面談を行った。手厚いサポートを必要とする学生に対して面談を重ね必要なサポートを受けられよう適切に報告、連絡、相談を行い年間を通して経過をフォローした。 ②複数担当の科目責任者として、学習効果の向上させるため効果的な授業運営を行う為毎回教員間の調整を図った。また、学生個々の学習状況を教員間で共有を図り学習支援を行った。 ③臨地実習では、実習目標を達成させるために学生個々の課題を考慮し指導した。 2) 研究活動 研究テーマ：研究テーマ：看護教育のプロンプト付加による記憶強化のための効果的なVDT画面設計 研究の現状：研究テーマに沿った文献等のサーベイと研究の為のシステム構築の段階 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（0回）論文（0編）著書（0冊） 3) 社会的活動等 まちの保健室活動（ボランティア研修、KOBETOKIWA健康ふれあいフェスタでの健康相談） KIT（子育て総合支援施設）のコティエを利用し地域住民の健康相談会を実施した。
今後の課題
・3年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続） ・複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営（継続） ・臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導（継続） ・SD委員会委員としての活動（学科内FD活動の計画立案から実施評価）（新規） ・科学研究費最終年度の為、停滞していた研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果の公表活動

教員名	中田康夫	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、教務委員会、情報インフラ整備ユニット、第13期長田区民まちづくり会議委員（にこやか部会副部長）				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、超ときわびと、情報基礎、統計学、いのちと共生、コミュニティデザイン、保健統計学、医療統計学、対人援助技術演習、福祉社会の理解、プレゼンテーション技法、歯科診療補助演習Ⅲ				
担当科目コマ数	13.4				
本年度の課題					
● 基盤教育科目の意図する、「学ぶ喜び、知る愉しさ」を担当科目の中で具現化					
● Social Engagement					
本年度の目標					
● アクティブラーニングの推進					
● 社会的活動の可能な限りの推進					
主な活動内容					
1)教育活動					
「まなぶる▶ときわびとⅠ＆Ⅱ」における教授学習方法を他の科目にも援用し、学生の主体的・能動的な学修をサポートできるように工夫しつつ授業を展開した。具体的には、教授パラダイムから学修パラダイムへの転換の意識し、教員が「何を教えたか」ではなく、学生が「何を学んだか」に重点を置いた授業を展開することにより、学生が受け身的な学修から主体的な学修へと徐々に深化していったと考える。					
2)研究活動					
研究テーマ：高等教育改革、高等教育質保証、介護予防、健康寿命の延伸					
研究の現状：学会発表・論文投稿とも予想以上に順調に推移している。					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 25 回） 論文（ 16 編） 著書（ 1 冊）					
本年度も昨年度同様、共同研究者とのコラボレーションが思った以上に推進でき、昨年以上のキャリアハイとなる業績を残すことができた。					
3)社会的活動等					
1. 第12期神戸市長田区民まちづくり会議の委員・同会議いきいき部会副部長					
2. 長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師					
3. きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長					
4. 平成28年度長田区地域づくり活動助成公開企画提案回審査員					
5. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？ その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全4回）					
6. 姫路赤十字病院看護部の教育プログラム「リフレクティブな後輩育成」をテーマとした研修会の講師（全3回）					

7. 神戸市長田区における「なあんカフェ（認知症カフェ）」の運営スタッフ
8. 大谷町介護予防カフェ「ひだまりサロン」の講師
9. 市立加西病院看護部における研究支援
10. 蓮池小学校ひとりぐらしふれあい給食会における「介護予防体操」（全2回）
11. 蓮池公会堂ふれあい給食会における「介護予防体操」（全1回）
12. 日本赤十字看護学会誌 選任査読委員
13. 神戸市長田区社会福祉協議会福祉活動助成選考委員会 選考委員
14. International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI Program Committee of 8th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)
11～14以外の活動はすべて過年度からの継続的な活動であるが、上記すべての活動に 対して次年度も引き続き支援を要請されていることから、一定の社会貢献ができていると 考えている。
今後の課題
● 「まなぶる▶ときわびとⅠ＆Ⅱ」のテキスト作成 ● 「統計学」「保健統計学」「医療統計学」のテキスト作成 ● 社会的活動として、現在進行中の「介護予防カフェ」のより一層の推進と深化

教員名	岩切 由紀	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、看護学科臨地実習委員・副委員長、IR推進ユニット				
クラス担任	なし	クラブ顧問		なし	
担当科目名	クリティカルケアⅠ・Ⅱ、看護研究方法論、看護研究、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	23.8				
本年度の課題					
1. 授業方法の変更後、臨地実習との連動をはかり成果を評価する					
2. 臨地実習における学習成果と安全を確保し、倫理的課題の調整に取り組む					
本年度の目標					
1. クリティカルケアⅠの授業展開変更後、実習との連動をはかる					
2. 療養支援実習Ⅱ・Ⅲでの看護展開能力の習得					
主な活動内容					
1) 教育活動					
(1) クリティカルケアⅠ：周手術期看護の特徴を学び事例を用い看護展開できるよう授業と自己学習・グループ学習を組み込んだ。成績評価も提出課題と定期試験の比重を同等としたため学生の取り組みは良好であった。次は実習で実践的な展開へつなぐ。					
(2) クリティカルケアⅡ：3年次前期で時間割が過密な中、選択者が少ないため関心テーマについてグループ学習・発表によりクリティカルケア看護の特徴に関心事から探求する学習法とした。循環・呼吸ケアは演習に組み込みより実践的な内容としたい。					
(3) 課題別総合実習・療養支援実習Ⅱ・Ⅲ：課題別総合実習では周手術期ならびにICU					

看護をテーマとし看護研究にもつながる実習が行えた。療養支援実習Ⅱ・Ⅲではルーブリック評価を次年度より導入する。目標を見直し評価項目を設定した。学生評価と対応させ項目の妥当性を確認する必要がある、調査研究で妥当性を検証する予定である。
2) 研究活動 研究テーマ：超急性期重症外傷患者の身体機能の安定化に向けた看護ケアの構造分析 研究の現状：データ分析中である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等 日本救急看護学会評議員・査読委員、調査研究委員会委員 第20回日本救急看護学会学術集会査読委員 日本救急看護学会主催：救急看護研究セミナー（初級）「文献検索と検討」講師 看護協会まちの保健室事業における活動（平成30年10月27日）
今後の課題
1. クリティカルケアⅠ既習内容から実習での看護展開への連動を強化する 2. クリティカルケアⅡでは演習から呼吸・循環ケアをより具体・実践的な学習とする 3. 療養支援実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価導入後の検証（研究含む）

教員名	谷口 由佳	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員、国家試験対策委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	老年看護学概論、看護対象論Ⅲ（老年）、老年援助論、療養支援実習Ⅰ・Ⅱ、課題別総合実習、看護研究方法論、看護研究、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	17.7				
本年度の課題					
教育活動：授業における学生個々の参加度や参加態度のばらつきの改善					
研究活動：研究論文作成、学会等での発表					
本年度の目標					
教育活動：学生が主体となって授業へ参画できるような授業展開					
研究活動：公費助成研究の完結					
主な活動内容					
1) 教育活動 学生の興味・関心を喚起するため、DVD視聴を通した高齢者理解、地域在住高齢者との語り合い、高齢者体験等、様々な工夫を取り入れた。本年度の課題として、学生個々の参加度や参加態度のばらつきの改善があったが、これに対しては学生に積極的に声をかけるよう努めた。例えば、グループワークでは各グループを回り、どのように話し合いが進んでいるかメンバーの一人一人から丁寧に聞きだし、コメントを加えていった。これによって、グループの課題が明らかになり、目標に向かって団					

結力も高まったと感じられた。授業評価の授業内容および授業方法に関する項目は、いずれの科目も4.2～4.3（/5.0）と高い評価が得られた。目標の達成度としては「ほぼできた」と考える。 2） 研究活動 研究テーマ①：高齢者の終末期ケアに携わる看護職を対象にした教育支援に関する研究 研究の現状：本年度の課題であった研究論文の作成を終え、学会等への発表に向け、準備を進めることができた。 研究テーマ②：専門職連携教育に関する研究 研究の現状：研究を実施し、結果および考察をまとめ、学会にて発表した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 研究活動では、文部科学省科研費補助金（基盤C）の助成を受けている研究を計画通り完結した。また、専門職連携教育に関する研究という新たな研究にも取り組みことができた。目標の達成度としては「できた」と考える。 3） 社会的活動等 兵庫県看護協会北播支部の看護職交流会に積極的に参画し、自身の研究領域である高齢者のエンドオブライフケアについて臨床現場の看護職とともに検討を深め、実現に向かって活動を広げることができた。目標の達成度としては「ほぼできた」と考える。 今後の課題 教育活動においては、グループワークが中心となることが多い分、学生個々の参加度や参加態度のばらつきは今後の課題としても続く。学生皆が主体となって授業へ参画できるよう、さらに工夫していく必要がある。研究活動においては、作成した研究論文を投稿していきたいと考える。
--

教員名	阿 児 馨	所属学科	保健科学部	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員・就職委員・まちの保健室					
クラス担任	1年生クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	老年援助論、看護研究演習、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、課題別総合実習					
担当科目コマ数	21.5					
本年度の課題						
・ 老年看護学の教材研究（領域変更） ・ 療養支援実習（ⅠⅡⅢ）の学生指導、実習環境の調整（領域変更）						
本年度の目標・方針						
・ 老年看護学領域への変更に伴い、研修会への参加など教材研究を行う。 ・ 新1年生のクラス担任としての支援活動。						
主な活動内容						

1) 教育活動 療養支援実習の実態を把握しながら指導構想を描き、実習目標達成させる支援に努力した 2) 研究活動 研究テーマ： ①看護学生と歯科衛生学生との合同演習による専門職連携教育の効果（共同） ②療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価の妥当性（共同） ③外国人看護師の研修制度を巡る課題 研究テーマの現状： ① 老年看護学学会へポスター発表（共同）の演題登録中。 ② テーマ別研究（共同）申請中 ③ 第3回国際地域看護研究会定例会で外国人技能実習制度の概要、外国人受け入れ拡大、研修制度を巡る課題について話題提供を行った。今後、社会地域共生の課題として研究計画、実施に向けて活動する。 本年度の研究業績：「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 はすいけデイサービスへのまちの保健室ボランティア活動（4回）神戸常盤大学の介護予防事業（2回）。神戸西部支部まちの保健室ボランティア活動研修会企画・運営。看護協会主催の看護フェアボランティア活動参加（2回）。神戸常盤大学看護フェアまちの保健室活動参加。第35回手話通訳研究討論集会で（視覚障害者への介護予防講座を体験した看護師の）体験発表、論文掲載への支援を行った。 進路相談会（出前授業）7月 兵庫県立東播磨高等学校、兵庫県立有馬高等学校 今後の課題 ・授業の教材研究を行い、学生に良質の課題を保証する。 ・ルーブリック評価の妥当性を療養支援領域の教員間で事例を用いて検討する。 ・研究を計画的に進める

教員名	中村 晶子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会・臨地実習委員会・（教務委員会）				
クラス担任	4年B	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康教育の理論と方法、公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ・Ⅱ、健康相談の理論と方法、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護実習Ⅱ、看護研究、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	18.9				
本年度の課題					

・保健師養成課程の実習その他運営 ・委員会における役割の遂行
本年度の目標
・実習その他の運営を円滑に進める。 ・保健師国家試験 100%合格を目指す。
主な活動内容
1)教育活動 公衆衛生看護実習Ⅰ（3年）では講義での学びを踏まえた指導、また公衆衛生看護実習Ⅱ（4年）では実習Ⅰでの学びを深める指導と共に、臨地指導者の方々と調整し実習内容を組み立てることができた。健康教育の理論と方法では前期（3・4年生）後期（2年生）の授業を行った。学生のレディネスを踏まえ、取り組みことができた。
2)研究活動 研究テーマ：介護と人権の協働調査・研究事業、協同学習法の導入効果 研究の現状：報告書の作成、収集したデータの分析予定 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 ・大阪市立大学共生社会研究会副会長 ・姫路市川東民生委員・児童委員協議会研修会
今後の課題
1. 教育活動：保健師養成課程の円滑な運営と課題に向けた調整 新規に担当する科目内容の充実 協同学習法による効果的な授業展開 2. 研究活動：協同学習法に関するデータの整理、分析 新たな研究（認知症高齢者に関するテーマなど）の計画

教員名	藤原 桜	所属学科	保健科学部 看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会委員、臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、高大連携委員会委員（明石南高校担当）				
クラス担任	4年Aクラス（4年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護研究、まなぶる▶ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	24.5				
本年度の課題					
1. 教育活動：看護技術の教育方法・内容の充実を図る。自分自身も省察的教育者としての力を培う。					

2. 研究活動：本学ブランディング事業のユニット研究に着手する。
3. 社会活動：人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。
本年度の目標
1. 教育活動：看護技術の教育方法および内容の充実を図る。また、リフレクティブな看護実践能力を育む。さらに、自分自身も省察的教育者としての力を培う。
2. 研究活動：本学ブランディング事業のユニット研究に取り組む。
3. 社会活動：人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動を行う。
主な活動内容
1) 教育活動：主担当科目（基本看護技術Ⅲ）では、フルスケールシミュレーションを取り入れ、より実践的な演習を行った。また、リフレクティブジャーナルを取り入れ学生の省察的態度を育んだ。一方で自身は、学生のリフレクティブジャーナルから自己の指導を俯瞰的に振り返るよう努めた。結果、学生からの授業評価も高く、<u>本年度の目標1は、概ね達成できた</u>と考える。 2) 研究活動：研究代表者としてブランディング事業のユニット研究を行った。また、共同研究者として1本の研究を行った。これらのことから、<u>本年度の目標2は概ね達成できた</u>と考える。本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照。 学会発表（ 1 回） 学術論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等：【講演】1. 本学公開講座：アロマセラピー。2. フォレスト垂水式番館くらし安心セミナー：アロマセラピー。3. 本学子育て支援施設ときわんモトクロク：アロマセラピー。4. 本学子育て支援施設えん：アロマセラピー。【非常勤講師】1. 神戸市看護大学で看護技術学概論の授業を担当。2. 兵庫県立明石南高校（高大連携）で「医療入門」の授業を1回担当した。【ボランティア】本学健康フェア、大学祭で地域住民にアロマハンドマッサージを行った。これらのことから<u>本年度の目標3は達成できた</u>と考える。
次年度の課題
1. 看護技術の教育方法・内容の充実を図る（特にフルスケールシミュレーション）。 2. ブランディング事業のユニット研究の成果を公表（学会発表と論文執筆）する。 3. 人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。

教員名	永 島 聡	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会、健康保健センター(学生相談室)、地域交流センター(B)、教職支援センター				
クラス担任		クラブ顧問	軽音楽部		
担当科目名	教育心理学、生涯発達論、生徒指導論、教育相談、養護実習Ⅰ、事前及び事後の指導、養護実習Ⅱ、教職実践演習(養護)、看護学研究、教育相談、生徒・進路指導論、大学道場miniゼミA、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、心理臨床学、心理臨床学、人間関係論				
担当科目コマ数	15.2				
本年度の課題					

学生が自ら興味関心を持って心理学を学び、かつ学ぶことによるこびを感じる契機となり得る授業を展開すること。
本年度の目標
受講者数の多い授業である「人間関係論」「心理臨床学」の「学生による授業評価調査」において、「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった」「自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた」「この授業を受けて満足している」の項目についてそれぞれ平均4点以上を目標とする。
主な活動内容
1) 教育活動 ● 新たな心理学的知見の吸収 ● 視聴覚教材の駆使、講義における言葉の選び方、学生との直接的やり取り等、授業方法の工夫 上記の活動により、本年度に関しては授業評価の目標点数は達成できている。 ● 「学生相談サロン」等における学生相談活動 上記の利用者は実人数70名、延べ人数213名であった。 2) 研究活動 研究テーマ：教育相談へのフランク理論の応用 研究の現状：特別支援学校等での教育相談活動において実践および情報収集中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 1編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ● 高等学校、特別支援学校等での教職員研修
今後の課題
● 新たな心理学的知見の獲得 ● 学問を学生とともに楽しむ能力の更なる向上

教員名	西原詩子	所属学科等	看護学科	職名	特任講師
委嘱委員・職務					
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	生活健康論、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	16.6				
本年度の課題					
本年度より生活健康論を担当するため、学生が興味を持てるような授業内容になるように工夫する。 自分の研究テーマにそって、研究資金を獲得できるように計画を立案する。					

本年度の目標
・学生の授業評価が平均3に到達する。 ・科研費等、研究費獲得のためにアプライする。
主な活動内容
1)教育活動 2)研究活動 研究テーマ： 糖尿病と歯周病に関する研究 研究の現状：研究費を獲得し研究計画立案中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 評価 生活健康論の学生授業評価については、学内全体平均を下回る項目もあり、主担当の教員と授業内容について、見直しする必要がある。 研究活動については概ね計画どおりに進んでおり、継続することとする。
今後の課題
学生が興味を持てるような授業内容の工夫をさらに検討する。 科研費を獲得できたため、研究を開始する。

教員名	江口実希	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護特性論, 精神看護援助論, まなぶるときわびとⅠ, 看護研究, 健康支援実習Ⅱ, 課題別総合実習, 看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	23.3				
本年度の課題					
本年度の目標					
H30年度、着任させていただいた。本学教員としての役割を果たすことができるように努力することが目標である。					
主な活動内容					

1) 教育活動
講義・実習・看護研究指導を中心に学生教育活動を行った。
2) 研究活動
研究テーマ：「反すう」に着目した抑うつ防止プログラムの開発-看護師が行う新しい認知行動療法
研究の現状：「反すう」に着目した認知行動療法プログラムを開発し、プログラムの効果検討に着手した。
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
学会発表（ 3回） 論文（ 4編） 著書（ 0冊）
3) 社会的活動等
なし
今後の課題
学生教育では、生活背景がさまざまな学生に対して個別性に配慮した教育を充実させることが課題である。また、今年度は社会活動と研究活動がほとんど行えなかった。次年度は、教育活動に加え、社会活動、研究活動のエフォートが 20%程度となるよう努力したい。

教員名	伊東 美智子	所属学科等	N科	職名	助教
委嘱委員・職務	看護師国家試験対策委員、まちの保健室				
クラス担任	3年生	クラブ顧問			
担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）、課題別総合実習、基礎看護学実習（看護過程）、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	22.4				
本年度の課題					
・3年生の担任および母性看護学教員として、十分に役割を果たせていない。 ・研究発表したものの論文化が遅れている。 ・博士課程（後期課程）での研究活動と大学業務との両立への不安がある。					
本年度の目標					
・3年生の担任および母性看護学教員として、役割を果たせるように努める。 ・研究発表したものの論文化に挑む。 ・博士課程（後期課程）での研究活動と大学業務との両立に臨む。					
主な活動内容					
1)教育活動					
各実習では個々の学生のレベルや状況に合わせた指導が出来るように、上司や科目担当教員と連絡を取り合いながら取り組んだ。					
2)研究活動					
研究テーマ：①母性看護学 ②社会人看護師と社会人看護学生					

研究の現状：①テーマ別研究での取り組みを継続中 ②今春より大学院博士課程（後期過程）に進学し、計画立案からデータ収集までを終了した。また、心理系学会における自主企画での演者発表も含め、年間を通じて研究活動を精力的に取り組んだ。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 7 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊） 3)社会的活動等 ・本学まちの保健室活動（子育て支援）と、母乳育児支援活動に1回ずつ協力した。 以上より、目標の概ねを達成できたと考える。
今後の課題 ・4年生の担任および母性看護学教員として、役割を果たせるように努める。 ・研究発表したものの論文化が遅れている。 ・博士課程（後期課程）での研究活動と大学業務との両立に臨む。

教員名	尾崎優子	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	SD委員会 委員 就職委員会 委員 子育て総合支援施設KIT学習支援センターてらこや 委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護対象論ⅴ、小児援助論、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、まなぶるときわびとⅠ				
担当科目コマ数	24.4				
本年度の課題					
担当科目や各委員会等職務における自己の役割を果たすとともに、本学で取り組むべき研究課題を明確化し研究活動を展開する。					
本年度の目標					
・ 小児看護学関連授業に関しては、次年度は講義の一部を担当する。また、演習方法の開発を新たに行う。 ・ 委員会活動に関しては、国家試験対策委員会にかわり就職委員会に配されたため、その職責を全うする。 ・ 研究活動に関しては、研究論文を2編以上投稿し、学会発表を少なくとも1回以上行う。 ・ 研究ブランディング研究チームに属す中で、子育て支援をテーマにした研究を実施する。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・ 各科目授業補佐、学内演習実施 ・ 看護対象論ⅴにおいて、ときわ幼稚園園児を対象とした計測・バイタルサイン測定演習を企画・実施した。					

各臨地実習指導、レポート指導、実習評価および臨床指導者会への出席
2) 研究活動
研究テーマ：
1.小児看護学演習の開発に関する研究（代表者：庄司靖枝教授）
2.学科テーマ別研究「地域活動拠点において看護学科が提供するAll Generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」（代表者：庄司靖枝教授）
3.私立大学ブランディング研究「子育て支援を活動分野とするサービ斯拉ーニングの特徴と課題に関する文献検討」（紀ノ岡浩美助教との共同研究）
4.看護師の生涯学習
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照
学会発表（ 3回） 論文（ 1編） 著書（ 0冊）
3) 社会的活動等
無し
今後の課題
投稿論文が1編であり、2編という目標には及ばなかったが、次年度の論文作成の土台となるデータ収集活動を精力的に行った。本年度の目標に掲げた内容は概ね達成することができたと思われる。次年度の課題は以下の通り。 - 小児看護学関連授業に関しては、次年度は講義担当コマ数を1つでも増やす。また、開発中の看護対象論Ⅴの演習（ときわ幼稚園での学外演習）を継続して取り組む。 - 研究活動に関しては、研究論文を1編以上投稿し、学会発表を少なくとも1回以上行う。 - 研究ブランディング事業チームにおける研究活動を継続し論文作成を行う。

教員名	紀ノ岡 浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会 国家試験対策委員会 ブランディング事業				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ 看護活動基礎実習 課題別総合実習 基礎看護学実習Ⅰ 療養支援実習Ⅱ 療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	26.9				
本年度の課題					
修士論文を書き上げ、博士前期課程を卒業する。 ブランディング事業の一貫として研究をおこなう					
本年度の目標					
修士論文の研究計画書を提出する 修士論文の倫理審査を通過する ブランディング事業で研究を行い、発表する					
主な活動内容					

1) 教育活動 実習指導 2) 研究活動 研究テーマ：子育て支援を活動分野とするサービ斯拉ーニングの特徴と課題に関する文献検討 研究の現状：文献を収集し、内容を検討している 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等
今後の課題
修士課程を卒業する テーマ別研究をおこなう ブランディング事業の一貫としての研究を継続する

教員名	中村由果理	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	広報委員会・国家試験対策委員会				
クラス担任	2年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	基本看護技術Ⅰ～Ⅲ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、課題別実習				
担当科目コマ数	22.7				
本年度の課題					
学生個々を大切にしたい教育を実践していく。 研究活動の充実を図る。					
本年度の目標					
1. 基礎看護学の授業を通して学生個々と向き合い看護実践につながる教育を行う。 2. 看護学実習における看護教員の関わりについて研究を進めていく。					
主な活動内容					
1) 教育活動 基本看護技術Ⅰにおいては、寝衣交換に関する講義を担当した。 基本看護技術Ⅱにおいては、検査に関する看護に関する講義を担当した 基本看護技術Ⅲにおいては、筋骨格筋系のフィジカルアセスメントに関する講義を担当した。 看護教育論では、継続教育の現状と課題についての講義を担当した。					
2)研究活動 研究テーマ： 看護学実習教育に関する研究 研究の現状：					

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 神戸常盤女子高校（2年生）への進学講座での講義を行った。 神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科、理学療法士科に「吸引」に関する講義を行った。 今後の課題 基礎看護学の授業を通しておおむね達成できた。 研究活動として、看護学実習における看護教員の関わりについて明らかにしていくため、本年度は実習における学生と教員との間主観的関わりについて研究計画書、研究倫理審査を終えることが出来た、来年度はデータ収集等研究を進めていきたい。

教員名	松岡 真菜	所属学科等	保健科学部 看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、				
クラス担任	1年Bクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ 看護活動基礎実習 課題別総合実習 基礎看護学実習Ⅰ 療養支援実習Ⅱ 療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	26.9				
本年度の課題					
研究論文を書き上げ学会発表を行う					
本年度の目標					
テーマ別研究を行う					
主な活動内容					
1) 教育活動 実習指導 2) 研究活動 研究テーマ:課題別総合実習で指導困難であったクリティカルケア実習の事例における指導の課題の明確化と指導の考察 研究の現状：論文執筆中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等					
今後の課題					
テーマ別研究を行う					

教員名	笹尾 裕美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会、健康保健センター(健康管理室)				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護活動基礎実習、課題別総合実習、基礎看護学実習(看護過程)、小児援助論、看護対象論Ⅴ(小児)、母子支援実習Ⅰ、まなぶる▶ときわびとⅠ、				
担当科目コマ数	22.5				
本年度の課題					
教育活動を行いながら、研究テーマを具体化し、研究実施ができるようにする。					
本年度の目標					
教育活動を行うことができる。 研究テーマを具体化し、研究の実施を行うことができる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 母子支援領域での授業演習の計画立案・実施を行った。また、母子支援実習Ⅰでは病棟実習・療育施設実習にて指導を行った。					
2) 研究活動 研究テーマ： 研究の現状：実施できていない 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 まちの保健室 年2回 自己評価：教育活動として、母子支援領域の小児看護実習を中心に学生指導を行った。実習中に領域長である教授に相談をしながら学生指導を行い、昨年度よりもできることが多くなったと考えている。 研究活動としては、研究計画立案や実施にまで至らずに本年度は終了している。 社会的活動等については、年2回開催しているまちの保健室に参加しているが、次年度以降さらにできることを考えていく必要がある。					
今後の課題					
教育と研究の両立ができるようにする必要がある。					

教員名	白石奈央	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	ボランティアセンター委員、健康保健センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎看護技術Ⅰ、Ⅲ 基礎領域実習				

担当科目コマ数	17.1
本年度の課題	
教育現場における看護師の役割について学び、臨床のことと合わせて学生に還元する 演習授業や実習を通して他の教員の実際や学生の反応を得て大学教育について考える	
本年度の目標	
上司の授業を聴講し、学生の反応を観察し、自らも積極的に教育方法について学ぶ 演習、実習など学生との関わりを通して、教育の方法、内容を深める	
主な活動内容	
1) 教育活動 看護活動基礎実習、課題別総合実習、基礎看護学実習、看護技術Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、まなぶるⅡ 2) 研究活動 研究テーマ：①技術教育過程における看護学生の情意領域の変化・臨地実習護のインタビュー分析 ②子育て中の母親のストレスに対するアロマセラピーの効果 研究の現状：①は昨年2018年秋にデータ収集に参加②は3月にデータ収集に参加 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等	
今後の課題	
研究と教育について学び、実践し、今後貢献できるようにする。	

3. 教育学部 こども教育学科 個人年間活動報告書

教員名	大森雅人	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学部長、学科長、子育て総合支援施設きつとセンター長、教職支援センター、高大連携部会、IR推進ユニット、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	なし		クラブ顧問	ドラマサークル	
担当科目名	保育内容（環境）、保育・教育課題研究Ⅰ、 教職実践演習（幼稚園・小学校）、卒業研究、教育方法の研究、 情報メディア演習、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
担当科目コマ数	8.6				
本年度の課題					
新教員養成課程・新保育士養成課程が順調に立ち上がるように運営する必要がある。 研究ブランディング事業が円滑に推進できるように運営する必要がある。 継続して科研費研究に取り組む必要がある。					
本年度の目標					
新教員養成課程・新保育士養成課程の申請業務を円滑に進め課程認定に至らせる。 研究ブランディング事業を計画通りに推進する。 科研費研究をさらに推進する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 通常の授業担当の他に、本年度は教育課程に関わる全体的な業務に携わった。成果として、 教員養成課程、保育士養成課程のいずれにおいても認定を得ることができた。					
2) 研究活動 研究テーマ：保育者養成教育の効果をより高めるための研究 研究の現状：科研費のテーマである、「「幼児が法則性に気付く体験」に繋がるような 環境構成を立案できる保育者の養成の研究」を中心として研究に取り組み、その成果は複 数回にわたり学会発表することができた。よって研究に関しては、着実に成果を積み上げ ていると言える。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（4回）論文（編）著書（冊）					
3) 社会的活動等 高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校、三木北高校で講師をした。研究ブランディ ング事業に関連するシンポジウムにおいて、シンポジストを務めた。他に社会福祉法人(保 育所経営)2法人の評議員を務めている。					
今後の課題					
平成31年度からの新教育課程が円滑に立ち上がるように管理運営する必要がある。 研究ブランディング事業の最終年度として、一定の成果を上げる必要がある。 引き続き、科研費研究を推進する必要がある。					

教員名	多田 琴子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員会委員・E科就職委員会委員・E科臨地実習委員会委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ 基礎研究演習Ⅱ 教職論 保育内容(健康) 2年保育実践演習 保育指導法 教育実習指導 教育実習 保育教育課題研究Ⅱ 教職実践演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究(4年生)				
担当科目コマ数	15.9				
本年度の課題					
・ 保育者養成コースの学生の「保育者としての力量形成」に向けて充実指導にあたる。 ・ 公立保幼並びに私学幼稚園就職に向けて、適切な環境作りと助言を行う。 ・ 実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みの一環として、学生の学びの可視化を行う。					
本年度の目標					
・ 保育者養成コースの学生の保育者としての力量形成を目指した取り組みを進める。 ・ 公立幼保就職に向けて、3年生から正課外においても対策指導にあたり、昨年度実績より上回る合格者を出す。 ・ 幼稚園見学研修・他大学学生や現場保育者との研究会を企画し、学生と現場をつなぐ。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・ 2年生保育者養成コースの学生の保育者としての力量形成を目指した取り組みとして授業の空き時間を活用して附属幼稚園のボランティア活動を昨年に引き続き行った。 ・ 学生自身の進路決定の材料となる模試受験を正課外で行い、対策と課題を提示した。結果として積極的に働きかけにより、公立保育士受験を学生に促し、宍粟市、姫路市、加古川市、神戸市、尼崎市、大阪市の公立保育所就職(計6名)に導いた。また、私学幼稚園の就職についても、昨年度実績を上回り、8名が希望の幼稚園に就職した。 ・ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ(3年生)卒業研究(4年生)・教職実践演習(4年生)において、幼稚園見学研修を実施し、指導案の検討や見学の振り返りをする事で、学生の現場イメージと保育力を高めることが出来た。					
2) 研究活動 研究テーマ：保育者の職能形成／幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造 研究の現状：保育現場と協働関係を築きながら継続的に、教員研修・園内研修・自主的研究会等を進めた。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表(4回) 論文(2編) 著書(2冊)					

3) 社会的活動等
・附属幼稚園とのコラボ事業「キッズクラブ」のコーディネート ・附属幼稚園キッズクラブ 講師（4回） ・常盤女子高等学校模擬授業（オープンスクール・2年生・3年生） 講師 ・鈴蘭台高等学校～総合的な学習～授業 講師 ・姫路市立幼稚園スペシャリスト事業（家島幼稚園・城西幼稚園） 講師（各1回） ・姫路市立総合教育センター事業（平成30年度新学習指導要領等対応研修「幼稚園教育要領」実践研修）講師 ・大阪市私立幼稚園連合会研修（教育・保育理論研修 乳幼児保育(1)(2)）講師（2回） ・ひかりのくに異年齢カリキュラム 編集委員会委員（毎月1回） ・姫路市立幼稚園自主研修会 オブザーバー（毎月1回） ・兵庫教育大学（保育内容言葉論） 非常勤講師 ・4大学合同保育実践研究会 in 姫路主催
今後の課題
・保育者養成コースの学生の「保育者としての力量形成」に向けて充実指導にあたり、ともに、公立保幼並びに私学幼稚園就職に向けて、適切な環境作りと助言を行う。 ・実践に寄与する研究パラダイムの構築をめざし、保育の実践を「学」にする取り組みの一環として、幼稚園見学研修・他大学学生や現場保育者との研究会を企画し、学生と現場をつなぐ。

教員名	瀬川和子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員 運営委員会委員 入試委員会委員長 合否判定部会委員長 高大連携委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 教科指導法(音楽)、保育・教育内容研究（ピアノ実践奏法）、卒業研究、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
担当科目コマ数	14.5				
本年度の課題					
・教育：小免関連科目の教授法と教材に関する検討 ・研究：研究時間の捻出と継続的な取り組み					
本年度の目標					
・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討すること。担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探す。 ・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。					
主な活動内容					
・H.30年5月ときわんモトロク 音楽講座講師 6月附属ときわ幼稚園 ときわキッズ講師・H.30年9月神戸常盤女子高等学校保育コース講師・県内高校ガイダンス（本学・学部・学科についての説明広報）					

今後の課題
・ピアノ初心者が増える傾向にあるため、「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」の習熟度の向上 ・小免関連科目の教授法の改善、および教材研究 ・研究時間の確保

教員名	藤本 由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	就職委員会委員、ハラスメント防止対策委員会委員、個人情報保護委員会委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容（造形表現）教科指導法（図画工作）、教職実践演習、基礎研究演習Ⅱ、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	13.1				
本年度の課題					
新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容の充実 4期生のキャリア支援 作品制作と発表					
本年度の目標					
2年生対象の新担当科目では、少人数ゼミ制という特色と自身の専門性を軸として展開し、2年目を迎える。初年度は、試行錯誤であったが、その経験を活かして充実を図りたい。 4期生の希望進路達成への支援（模擬面接、面談、卒業生・実習園への紹介・巡回等）を行う 一般社団法人 兵庫二紀展、二紀展、その他グループ展への作品制作と発表を行う。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
主な活動内容					
1)教育活動 2年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 授業補充時間を多くとった。 小学校免許状関連授業、保育士資格・幼稚園教諭免許状関連授業の充実を目指し、学会への参加、現任教員・保育士からのアドバイスも受け授業を展開した。					
2)研究活動 研究テーマ：学生の美術に関わる経験と実態についての研究 平面作品の制作 研究の現状：本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表＜展覧会＞（4回） 論文（2編） 著書（ 冊）					
3)社会的活動等 平成30年度兵庫二紀展 運営 2018.8					

今後の課題
授業内容の充実 5 期生のキャリア支援 新・新カリキュラムの準備 作品制作と発表

教員名	中田尚美	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理（災害）委員会委員長、研究倫理委員会副委員長				
クラス担任	3A	クラブ顧問	食育研究会		
担当科目名	保育原理、保育内容総論、保育内容（人間関係）、保育・教育メソッドの探究、キャリアプロデュース、大学道場miniゼミ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究				
担当科目コマ数	10.9				
本年度の課題					
・研究内容を担当授業に反映し、授業の充実を図る。 ・委員会活動に積極的に取り組み、学務により貢献できるよう努力する。					
本年度の目標					
研究内容を反映した指導資料を作成し、授業内容を見直す。 学内業務について、責任ある立場としての職務を全うできるよう努力する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 研究内容を反映した指導資料を作成するとともに、授業内容を全面的に見直した。特に大学道場miniゼミ、保育内容総論の授業において学生の興味を喚起することに努めた。授業評価や学生の反応からある程度目標を達成できたと考える。また3年担任として学生支援と理解に努めた。					
2) 研究活動 研究テーマ： 西洋における保育の思想 研究の現状： 保育所、幼稚園の源流となる近代保育思想について検討したが、あまり深めることができなかった。 本年度の研究業績： 詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 1 冊）					
3) 社会的活動等 神戸常盤大学公開講座「モンテッソーリに学ぶ21世紀の教育」3月2日（於：KIT）					

今後の課題
担当授業の教育効果を向上させるための研究を充実させる。 これまでの研究テーマに加え、保育英語に関する研究をさらに進展させる。

教員名	牛頭 哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	・こども教育学科教員養成コース長・K I T 学習支援センター長 ・広報委員会副委員長・就職委員会副委員長・教職支援センター委員・隣地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ（E1）基礎研究演習Ⅱ（E2）教科指導法 国語（E3）小学校実習（E3）卒業研究（E4）課題別実習（E4）教職実践演習（E4）キャリアプロデュース（E4）海外研修（E3E4）まなぶるときわびとⅠ（基盤）アカデミックライティング（基盤）				
担当科目コマ数	12.9				
本年度の課題					
● 私立大学研究ブランディング事業を通して、研究者としての関わり方を探る。 ● 学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。 ● 教員採用試験対策をさらに充実させる。					
本年度の目標					
● 小学校教員養成教育の充実を図る ● 基盤教育科目の授業の充実を図る					
主な活動内容					
1)教育活動					
・教科指導法（国語）や実習指導を通して、小学校実習において力を発揮出来る学生の育成に努めた。その結果、実習先での学生の実践が充実したものになった。改定学習指導要領の内容に即した指導法に努めたい。					
・アクティブ・ラーニングの授業の充実とチームビルディングに欠かすことのできないコミュニケーションの在り方について、学修者同士が相互に伝え合う場を設定し、「自己主張」と「他者受容が」どのように醸成されるかということを観察してきた。					
2)研究活動					
研究テーマ： アクティブ・ラーニングを支えるコミュニケーションの在り方					
研究の現状： 自分の学びの成果を振り返る場を何度もくぐり、学修者自身がどのような学びを得たのかを振り返りメタ認知する過程について観察を行った。					
本年度の研究業績： 詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（1回） 論文（0編） 著書（0冊）					
3)社会的活動等					
子育て総合支援施設 K I T 内の学習支援センター（てらこや）の管理運営。					

今後の課題
● 私立大学研究ブランディング事業を通して、地域との関わり方を探る。 ● 学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。

教員名	橋本 好市	所属学科	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員会委員、就職委員長・臨地実習委員会委員、E科将来構想委員会委員、教職支援センター委員、兵庫教育大学大学院指定校担当 他				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	大学道場miniゼミB（基盤）、基礎研究演習Ⅰ（E1）、基礎研究演習Ⅱ（E2）、基礎研究演習Ⅲ（E2）、社会福祉（E1）、児童家庭福祉（E1）、相談援助（E2）、卒業研究（E3）、卒業研究（E4）、保育実習指導Ⅰ（E3）、保育実習Ⅰ（E3）、保育実習指導Ⅲ（E4）、保育実習Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	12.1				
本年度の課題					
・保育士養成課程及び幼稚園教育課程のダブル改定に伴う学科再課程認定、新カリキュラム再編。 ・学科就職委員長として、一般就職希望者の内定獲得への支援。 ・経営安定な大規模法人及び外郭団体、公立への内定増。 ・平成27年度～平成29年度 文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号15K03994（研究代表者：直島正樹 相愛大学人間発達学部准教授）の遂行。					
本年度の目標					
・保育者養成コース長として、コースの特性を考慮したコース運用を図る。 ・本学及び所属学科の今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況を分析し、生き残りをかけた戦略構想。					
主な活動内容					
1)教育活動					
・兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉施設関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組みを図ってきた。実習の関係性だけでなく就職等にも学生への利益となっている。 ・包括協定締結の準備を進める社会福祉法人との調整を行い、順調に進めていくことができた。本学の利益の一助となるよう、立場を活用しつつ尽力していきたい。 ・担当科目について、所属学科学生のニーズに適した教授方法や最新情報等を踏まえ、学生の理解度と定着への工夫を図ったことで、授業評価の向上につながった。今後も講義内容を精査し、時代の動向に応じた内容を提供していきたい。 ・保育者養成コースの特性である幼稚園・保育所に加え社会福祉施設への就職を定着させることができ、男子学生に有意な社会資源としていくことができた。 ・4年生は、6名の就職活動辞退者がいたため、4期生は求職者内定率94%という結果とな					

った。四年制大学らしく一般企業への希望者が増加傾向にあるため、専門職領域への進まない学生へのキャリア支援が引き続き課題であることから、キャリア支援課と連携を強化していく。第一志望の内定獲得への支援を引き続き行っていく。

2)研究活動

研究テーマ：

保育士の専門性からみた社会的固有性としての保育ソーシャルワークの意義と可能性

研究の現状：

科研は最終年度を迎え、文献（先行）研究、保育所調査及び海外視察も終え、これまでの研究内容と成果を整理し、学会発表及び学会投稿論文（査読有、掲載済み）等をこなすことができた。現在、最終年度としてのまとめとして報告書の作成に臨んでいる。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（ 4回） 論文（ 2編＜査読有＞） 著書（ 0冊）

3)社会的活動等

- ・神戸大学 大学院 人間発達環境学研究科 非常勤講師（臨床心理実践演習）
- ・社会福祉法人 うるま福祉会 評議員
- ・社会福祉法人 白百合学園 理事
- ・社会福祉法人 陽気会 評議員
- ・尼崎市保育所設置法人等選定委員会 委員長
- ・尼崎市立すこやかプラザ指定管理者選定委員会 委員長
- ・尼崎市立富松保育所移管法人選定委員会 副委員長
- ・尼崎市子ども・子育て審議会 特別委員（利用者負担検討部会 副部会長）
- ・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』査読委員
- ・兵庫県施設保育士養成協議会 会長
- ・文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業（保育分野における長期就労支援に向けたリーダー育成プログラム開発事業）」委員

他

今後の課題

本学科はコース編成体制から4年目を迎え、2019年度入学者から保育士養成課程及び幼稚園・小学校教員養成課程の新課程が始まる。新・旧カリキュラムが混同するため、各コース所属学生が教育への支障をきたさないように細心の留意が求められる。

同過程を営む周辺大学の定員割れが常態化していることから、本学科独自に定員充足に向けた課題を整理し、学科総力で学資募集に立ち向かわなければならない。学生及び保護者の進路決定要素の一つに就職内定率があげられる。したがって、入試と就職はリンクするとの視点から、就職率向上及び大手就職先の安定確保を目指していく。

学科業務の適正な運用を図りつつ、本学部の魅力を公に伝割ることへの努力を怠らないこと、個人研究との両立とを心掛けていきたい。

教員名	光成 研一郎	所属学科等	こども教育	職名	教授
委嘱委員・職務	学長補佐、教務委員長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	テニス部		
担当科目名	「教育原理」、「教育方法・技術論」、「いのちの理解」、「卒業研究」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」、「大学道場ミニゼミ」、「教育と人間」				
担当科目コマ数	10.8				
本年度の課題					
昨年度より実施されるようになった基盤教育科目「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、昨年度は科目のねらいや教育内容及び方法について学内に向けて発信が不十分であった。					
本年度の目標					
基盤共通科目「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」のねらいや教育内容及び方法について学内発信を行い、学内共有を図る。					
主な活動内容					
1)教育活動 「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、科目の運営、取りまとめを担った。アクティブ・ラーニングを通して、ジェネリックスキルの養成を意図し、学びの可視化を実現するとともに、学生の振り返りを重視するためにマナバを授業活用した。また小学校教諭および養護教諭採用試験対策に取り組んだ。					
2)研究活動 研究テーマ：「まなぶる▶ときわびとⅠ」の実践を通じたジェネリックスキルの育成について 研究の現状：アクティブ・ラーニングで育成したいと考える思考力やジェネリックスキルはデューイのいう「経験」の連続と相互作用を通じて育成され则认为。学習者の学びを可視化し、経験の連続性と相互作用性を学習者に認識させることがそれらの育成に結びつくと考えている。 本年度の目標として掲げた上記科目の学内発信を行い、学内共有を図るべく、常盤学術フォーラムで発表も行った。3月には「組織開発（Organization Development）を活用した初年次教育プログラムの実施と評価」をテーマに、大学教育研究フォーラムで発表した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（2回）論文（4編）著書（1冊）					
3)社会的活動等 「ブランディング事業」採択に伴い、学内および学外の方々と連携し、「地域とともに歩む常盤大学」の醸成に尽力した。					

今後の課題
来年度で3年目を迎える「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、来年度は授業のねらい、教育内容及び方法について一層の学内発信、共有を図る。またさらなる授業改善も図る。

教員名	笹井隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試問題作成委員・入試委員会・学習支援センターてらこや委員				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	人類と地球環境・地球と環境・コンピュータ演習Ⅰ・コンピュータ演習Ⅱ・理科・卒業研究・卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ・基礎研究演習Ⅰ・保育・教育課題研究Ⅰ・保育実践演習・生物（通信）				
担当科目コマ数	11.4				
本年度の課題					
・学内業務に責任を持って取り組む。 ・学生に自然との触れ合いを体験させ、現場で対応できるよう資質を高める。					
本年度の目標					
・観察会や自然体験プログラム(キーナの森)への参加学生を増やし、多くの体験をさせる。 ・離島の社会性ハチ類の研究					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・学科内の卒業研究担当としてゼミの振り分け等を行った。 ・1年生担任として、学生生活、幼稚園等の見学、就職への準備等に取り組んだ。 ・学外での学生の自然体験活動は、あまりできなかったが、学内では裏山を使って自然環境づくり等の体験をさせることができた。					
2) 研究活動					
研究テーマ：離島の社会性ハチ類の分布・生態調査 白色変異カスミサンショウウオの長期飼育と遺伝 竹筒トラップを用いて学内に生息するハチ類の調査					
研究の現状：201804019～22 渡嘉敷島にて調査 2018年4月 学内に竹筒トラップを設置					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
3) 社会的活動等					
0180407 「山菜展」 のあそびクラブ 桜が丘春祭り スタッフ					
20180428 30年度 第1回こども里山探検隊（武田尾廃線敷きの植物と生きもの観察）講師 北摂里山博物館・宝塚市自然保護協会					
20180523 「カブトムシと遊ぼう」 第1回ときわキッズクラブ 講師 神戸常盤大学附属ときわ幼稚園					
20180602 「ホタル探検隊」 のあそびクラブ・あさひ児童館 講師					

20180617	「ホタル観察会」	宝塚市自然保護協会	宝塚市少年自然の家
20180804	明石川の生き物展	のあそびクラブ	桜が丘夏祭り スタッフ
20180805	明石川の生き物調査	のあそびクラブ	講師
20180809	夏休み宿題講座	ネイチャークラフト	KIT(寺子屋)
20180811	ライトトラップ	キーナの森	ひょうご環境創造協会 講師
20180906	育英幼稚園	講演会	講師
20180907	六甲藤原台幼稚園	講演会	講師
20180911	北六甲幼稚園	講演会	講師
20180911	K I T	講演会	講師
20180926	六甲幼稚園	講演会	講師
20181029	「ドングリを探そう」	ときわ幼稚園	キッズクラブ 講師
20181118	「里山保全体験と秋の自然探検」	こども北摂里山探検隊	講師
今後の課題			
・学生の、様々な自然体験をサポートする。			

教員名	脇本 聡美	所属学科等	こども教育	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、SD委員会、国際交流センター				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、コミュニケーションⅢ、英語教育論、保育・教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、海外研修				
担当科目コマ数	13.4				
本年度の課題					
学生の学びが深まる授業を計画する 教育活動と研究をうまく融合する					
本年度の目標					
アクティブラーニングを取り入れた授業を実践すること 小学校英語教育教員養成教育をテーマにした研究を論文にまとめること					
主な活動内容					
1) 教育活動 個人指導をした上でプレゼンテーションを行う課題やグループワークで行う課題を授業に取り入れるようにし、学生が主体的に学ぶ活動を増やした。 ・課程外活動として近隣公立校において3・4年生学生が自分たちで考えた英語活動プログラムを実施する機会を作った。					
2) 研究活動 研究テーマ：小学校英語教育教員養成プログラム開発					

研究の現状：前年度収集したデータを基に論文にまとめて投稿した 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 実用英語検定面接委員 公開講座「英語絵本を読んでみよう！」講師 寺子屋講座英語プログラム講師 モトロク講座「英語で遊ぼう」講師 常盤幼稚園第 12 回ときわキッズクラブ「英語で遊ぼう」講師
今後の課題
学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること 採択される論文を書くこと

教員名	山下敦子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試広報委員、就職委員副委員長、臨地実習委員副委員長、教職支援センター委員、ときわ教育推進委員会委員				
クラス担任	1年生（教員養成コース）		クラブ顧問		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、教職論、国語、インターンシップA、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教職実践演習、教育実習、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング（M,N,E）、小学校実習				
担当科目コマ数	13.6				
本年度の課題					
・ 学生の「学ぶ意欲の向上」をめざした授業を実施する。 ・ 学生の進路を把握し、きめ細やかな相談や助言を行う。 ・ 教育現場、外部機関との連携を一層充実させ、実践的研究を行い論文としてまとめる。					
本年度の目標					
・ 担当授業の充実と、教員採用試験対策に向けた取り組みの充実を図る。 ・ ブランディング事業に係るユニット研究の推進を図り、論文としてまとめる。 ・ 教育委員会指導課、産学連携課等外部の機関との連携を強化し、本学の事業や学生の教育（ブランディング事業や子育て総合支援施設 KIT 等）との連動をより一層図る。					
主な活動内容					

1) 教育活動 ・ アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、学生が課題意識を持って学修する授業を実施した。 ・ 教育実習指導、教員採用試験対策指導等において、模擬授業、模擬面接、小論文指導などを充実させた。 2) 研究活動 研究テーマ：① 長田区小学校における児童の学力向上に向けた授業改善 ② 小学校国語科における授業改善と教員の資質向上 研究の現状 ① については、長田区小学校と連携を図り、教員の意識調査や授業を参観し、実態の把握に努めた。 ② についてはH市、K市教育委員会指導部との連携を図り、授業の実態把握と改善への手立てを開発中である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 1 冊） 3) 社会的活動等 ・ 「神戸市こどもの創造的学びに関する研究会」研究会委員、作業部会委員 ・ 「神戸市授業改善推進モデル校」等への指導助言 ・ 明石市教育研究所スーパーバイザー（国語科教育、特別支援教育） ・ 第25回国語教育研究大会 講師 ・ 枚方市教育委員会学力向上研修会 講師 ・ 大阪府主体的・対話的で深い学び（STF）の実現に向けた実践研究指定校への指導 ・ 大阪府北河内国語教育研究大会 講演 ・ 大阪府豊能地区小学校授業研究会 指導助言 ・ 大阪市立小学校学校協議会委員 ・ 「啓く国語の会」主宰、研究会を2回開催 ・ ERP 教育研究所「教師力向上研修会」幹事、及び講師
今後の課題 ・ 教育活動においては、教育実習指導、採用試験対策指導において最新の情報や傾向を基に指導助言を行い、採用実績を向上させていく。 ・ 研究活動においては、今取り組んでいる内容をまとめ、論文として発表していく。 ・ 社会的活動等においては、各外部機関との連携をより図り、本学の事業や学生の指導に反映させていく。

教員名	松尾寛子	所属学科等	教育学部	職名	准教授
委嘱委員・職務	子育て支援センターえんセンター長、こども教育学科臨地実習委員委員長、こども教育学科就職委員				
クラス担任	4年生担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障害児の理解と支援Ⅱ、保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、基礎研究演習Ⅰ、基礎研究演習Ⅱ、保育実践演習、卒業研究				
担当科目コマ数	14.5				
本年度の課題					
・委員会活動等の学内業務について、責任ある立場としての職務を全うできるようにする。 ・社会的活動について、要請が増えてきているが、一つひとつ丁寧にに取り組む。 ・教育活動について、社会的活動によっておこる時間の制約が学生に影響しないように最大限学生に費やす時間を捻出する。 ・研究活動については、緑葉に投稿する。					
本年度の目標					
・学内の活動にも積極的に取り組む。 ・教育活動について、学生の保育者生活を予測しながら、より細やかに実践の場を理解できるように授業内容を工夫する。 ・社会的活動について、教育活動に影響が出ないようにしつつ丁寧にに取り組む。					
主な活動内容					
1) 教育活動 学生が授業や授業の内容に興味を示すことができるように、昨年度に引き続き教材研究を行った。配布資料については穴埋め式のものをさらに増やした。資料作成に時間を要したが、学生の受講態度については授業内では居眠りする学生が昨年度以上に減り、重要事項を記入することにより記憶に繋がり、教育的効果が上がったのではないかと実感できた。 ・授業内容について、学外活動も昨年度以上に取り入れた。学生は実践を経験することもでき、事前準備にも熱心に取り組み効果があったのではないかと感じる。					
2) 研究活動 研究テーマ：障害のある子どもを育てる保護者に対する子育て支援についての一考察 研究の現状：継続中である。次年度日本保育学会にて学会発表も実施する予定である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（0回） 論文（1編） 著書（3冊）					
3) 社会的活動等 1. 障がい児保育分野/社会福祉法人都島友の会 保育士等キャリアアップ研修 2. 乳児保育/平成 30 年度加古川市保育士等キャリアアップ研修 3. 「支援を必要とする子どもと育ちを支える保護者と保育者との関係」「保護者や家族に対する理解と支援 」/子供の城協会夏期講座研修会 4. 保育の中における支援を必要とする子どもへの関わり方と保護者との関係構築について」/兵庫県保育協会障害児保育研修会 5. 乳児保育における発達を促す遊びや生活習慣の援助と乳児の発達に寄り添う保育者の					

関わりや指導計画について/兵庫県保育協会乳児保育研修会
6. 支援を必要とする子どもへの保育環境と発達への支援のあり方」/みかり会法人職員研修
7. 発達障害のある子どもの特性を理解した支援の基本的な手立て/尼崎市立園田保育所研修
8. 障害児保育における指導計画/平成 30 年度西脇市幼保交流研修会・保育士等キャリアアップ研修講師
9. 支援を必要とする子どもの保護者の障害理解を含めた保護者対応について/尼崎市立幼稚園特別支援学級担任会研修会
今後の課題
・委員会活動等の学内業務について、昨年以上に時間を割き丁寧に職務を全うする。 ・社会的活動について、要請が増えてきているが、一つひとつ丁寧に取り組む。 ・教育活動について、社会的活動によっておこる時間の制約が学生に影響しないように最大限学生に費やす時間を捻出する。 ・研究活動については、学会発表と緑葉に投稿する。

教員名	高松 邦彦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	KTU大学研究開発推進センター、ときわ教育推進機構、ライフサイエンス研究センター、自己点検委員会、図書・紀要委員会、情報インフラユニット、FAST等企画運営ユニット、IR推進プロジェクト				
クラス担任	3年B組	クラブ顧問	硬式テニス部		
担当科目名	保育・研究課題研究II、保育・研究課題研究III、卒業研究I、卒業研究II、卒業研究III、卒業研究IV、遺伝学、医療英語、医療統計学、文献講読、バイオインフォマティクス、保健統計学、プレゼンテーション技法、暮らしの中の数学、統計学、芸術文化論、まなぶるときわびとI、まなぶるときわびとII, 超ときわびと、コミュニティデザイン				
担当科目コマ数	13.2				
本年度の課題					
本年度は、こども教育学科に初めて来た年であったので、授業をきちっと行うことを課題とした。					
本年度の目標					
こども教育学科の教員として、きちっと役割を果たすことを目標とした。					
主な活動内容					
1) 教育活動 「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」のコアメンバーとして、科目の運営、取りまとめを積極的にサポートした。本年度は、卒業研究については、従来所属していた保健科学部医療検査学科の卒業生を担当した。来年度からは、こども教育学科の卒					

業生を担当することとなった。 2) 研究活動 研究テーマ： Eduinformatics 研究の現状：高等教育に、エビデンスベースドな解析を行うことで、様々な研究をおこなっている。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（39回） 論文（42編） 著書（0冊） 2018年11月 人工知能学会セマンティックウェブとオントロジー研究会 第1回ナレッジグラフ推論チャレンジベストリソース賞受賞 3) 社会的活動等 International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 7th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2018)、International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Conference Chair of 8th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)、IJIRM: International Journal of Institutional Research and Management The proxy of Editor in chief of IJIRM AED 講習回を、講師として行った。 高取の福祉避難所の炊き出し訓練に参加。 1. 17の炊き出しに参加。
今後の課題 来年度は、International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Conference Chair of 8th international Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)とIJIRM: International Journal of Institutional Research and Management The proxy of Editor in chief of IJIRMの役割があるため、学内業務に支障が出ないようマネジメントを工夫したい。

教員名	國崎大恩	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	就職委員、教職支援センター委員、私立大学研究ブランディング事業A チームリーダー				
クラス担任	2年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ、まなぶるときわびとⅡ、海外研修、教職実践演 習、卒業研究、基礎研究演習Ⅱ、教育の思想と歴史、人間と教育、道徳				

	教育の理論と実践、教科指導法特論Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、地域との協働B、道徳教育と特別活動論、生涯学習論、現代こども教育論、法と教育、特別活動の指導法、
担当科目コマ数	19.4
本年度の課題	
私立大学研究ブランディング事業の取り組みを充実させ、本学の知名度をあげる。	
本年度の目標	
私立大学研究ブランディング事業における諸研究を推進し、シンポジウム等の開催により本学の知名度をあげる。	
主な活動内容	
1) 教育活動 小学校教員採用試験の合格にむけて学生一人一人のニーズに合わせた指導を行った。 2) 研究活動 研究テーマ： 地域子育てプラットホームの構築を通じたAll-Winプラン 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 3編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 KIT における学童学習支援、高大連携に関わる授業実施	
今後の課題	
博士論文の執筆に向けて、研究活動を充実させる。	

教員名	柳原 利佳子	所属学科等	こども教育	職名	講師
委嘱委員・職務	教務・就職・臨地実習・学生相談室など、保育者養成コース				
クラス担任	1 年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	こころの理解，基礎研究演習Ⅰ，カウンセリングの技法，発達心理学Ⅰ，発達心理学Ⅱ，保育の心理学，教職実践演習（幼稚園・小学校），卒業研究Ⅰ，卒業研究，人間関係論，生涯発達論				
担当科目コマ数	14.4				
本年度の課題					
・授業担当科目の内容を精査する。 ・新カリキュラムの2年間を通した卒業研究がスタートするので，計画的に進める。					
本年度の目標					

・担当２年目の科目を特に重点的に内容を精査し授業を行う。 ・卒業研究Ⅰを計画的に進める。 ・カリキュラム内容に精通し履修指導に活かす。
主な活動内容
1) 教育活動 ・担当科目の内容を精査し、評価方法を見直して一部変更を加えた。 ・クラス担任として面接・指導などの機会を利用し学生理解に努めた。 ・卒業研究ゼミ指導教員として学生及び保護者への相談・支援を行った。 ・学生サロンとしての時間を取り学生から相談を受けた。 2) 研究活動 研究テーマ：女性のSexuality形成に関する要因 研究の現状：更年期女性、あるいは更年期を経験済みの女性たちと各人の心身のトラブルなど語り合う活動に参加して話を聞いているが、業績にはつなげていないままである。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊） 3) 社会的活動等 ・武庫川女子大学へ出講 ・7月：東灘高等学校 高大連携講座 対人援助職のための発達学～人間関係の形成 ・10月：神戸市立駒ヶ林中学校 市民救命士講習
今後の課題
・卒業研究において学生のモチベーションが低下しないよう継続的な指導と支援をする。 ・3種類のカリキュラムが進行するという複雑化した中で、履修指導を滞りなく行う。

教員名	近藤みづき	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員、健康管理室、子育て支援センターえん				
クラス担任	3年B組		クラブ顧問	テニス部・ソフトテニス部・ダンス部	
担当科目名	健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅲ、健康スポーツ科学（0科）、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、体育Ⅰ、体育Ⅱ、卒業研究（E4）、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ（E3）				
担当科目コマ数	15.2				
本年度の課題					
・学務を支障なく進め、個人研究活動をさらに進める。 ・新設科目の準備をすると共に、学生が主体となる授業を展開する					
本年度の目標					
①学生個人の支援や学生生活の支援を確実に遂行する。 ②研究成果を論文にまとめ、投稿する。 ③授業にグループワークやプレゼンテーションを導入する。					

主な活動内容
1) 教育活動 「体育Ⅰ・Ⅱ」では、授業でグループワークやプレゼンテーション等を使って学びを振り返ることで、学生自身の成長を可視化できた。また、「体育Ⅱ」の作品創り活動で ICT 機器を活用することで、他グループの作品を観察、比較、検討できた。そして、その過程が作品づくりの探究につながった。今後も継続していきたい。 2) 研究活動 研究テーマ：こどもの動感身体知について 研究の現状：掲載待ち 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・日本スポーツ運動学会 理事 ・全国小学校体育研究連盟 常任理事 ・第 62 回全国小学校体育科教育研究集会・郡山大会「ゲーム・ボール運動」助言者 ・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「マットや跳び箱で遊ぼう！」講師 ・神戸常盤大学子育て支援センター「親子のふれあい運動遊び」講師
今後の課題
・個人研究活動を進める。 ・学務を支障なく進める。 ・新カリキュラムにおける新規科目を滞りなく遂行する。

教員名	大城 亜水	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、ときわんモトロクセンター長				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、まなぶるⅠ・Ⅱ、情報基礎、情報メディア演習、地域との協働A、家庭支援論、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、保育実践演習、保育・教育研究課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
担当科目コマ数	16.3				
本年度の課題					
所属学科のカリキュラムや年間行事を把握し、業務内容を覚える。					
本年度の目標					
上記課題を完遂					
主な活動内容					

1) 教育活動 ・就職活動、進路相談や履歴書添削 ・「情報基礎」の授業で他大学交流（大阪市立大学） ・「卒業研究Ⅱ」で正課外活動実施（淡路市役所ヒアリング） 2) 研究活動 研究テーマ：近代日本における教化論の形成と展開―労働と生活をつなぐ― 研究の現状：女性の働き方を中心に文献調査を進めている。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 2 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 【講演】 現代日本の社会政策を問う（シンポジウム）／玉井金五（愛知学院大学）・服部良子（大阪市立大学）・森詩恵（大阪経済大学）・大城亜水（大阪市立大学）／大阪労働大学講座（平成29年度）／2018年1月 【講座】 少子化対策―少子化の動向とワーク・ライフ・バランスなどの政策的課題／大城亜水（神戸常盤大学）／大阪労働大学講座（平成30年度）／2018年9月 今後の課題 ・来年度は研究活動に一定の成果が求められるため、教育活動や校務に支障がないことを確認しながら、しっかり活動に取り組みたい。
--

教員名	川井 綾	所属学科等	こども教育学科	職名	助手
委嘱委員・職務	臨地実習委員会・子育て支援センターえん委員会				
クラス担任		クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名					
担当科目コマ数	－				
本年度の課題					
・学生の実習準備がスムーズにでき、取り組めるような環境づくりに努める。実習終了後の学生が進路に迷う姿や悩みを持つ姿が時折見受けられる。教員と学生の橋渡しの役割としてサポートできる姿勢を常に持っておく事。					
本年度の目標					
・実習先での経験を通してボランティア・アルバイト・就職へとつながる機会が生かせるように、教員と学生の仲介役として連絡を密にとっていく。 ・親子のふれあい遊びに取り組み、ブランディング事業を通して地域に貢献していく。					
主な活動内容					

1) 教育活動 ・実習先は、学生の就職先につながるケースが多々あるため、学生が充分力を発揮できしっかりとした心構えで臨めるように励まし、事務的なやりとりもスムーズに進行するように努めた。 ・「図画工作」・「こどもの保健」・「子どもの食と栄養」の授業に出席し、保育者として必要な資質・技術について学生と共に学びを深めていけるよう実践した。 ・ハローベビー部の活動である人形劇やボランティア活動を活性化し、健康フェスタ等で披露する事に学生が熱心に向き合える環境作りに努めた。 2) 研究活動 研究テーマ： 親子のふれあいあそび 研究の現状：子育て支援センターえんでのふれあい遊びを実践 国崎大恩先生による考察と分析 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・長田区カンガルーフェスタに参加。子育て支援の一環として親子で遊べるスペースを提供。（子育て支援センターえんのスタッフの方々との連携）
今後の課題 ・新カリキュラムによる全実習が実施される年度であるため、事務的な部分は年間を通して工程を記録し、次年度へのマニュアル作成へとつなげる。 ・学生とのコミュニケーションを大切にし、実習がスムーズに進行するよう努める。 ・基本となる書類の形式を整える事や、書類の保管場所を確定する等、実習準備室の運営基盤を作る。

4. 短期大学部口腔保健学科 個人年間活動報告書

教員名	吉田幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長，口腔保健研究センター長，運営委員会委員，学園一体化推進協議会委員，学長会議委員，合否判定部会委員，高大連携部会委員，短期大学認証評価準備委員会委員長，ALO委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論，栄養指導法，学びの基礎，健康科学総論，歯科衛生過程演習，歯科医療と法律・制度，歯科予防処置演習BⅡ，口腔保健衛生学実習Ⅱ，地域口腔保健支援実習Ⅱ，こどもの歯と健康（E科），健康スポーツ科学Ⅰ（E，N，M科）				
担当科目コマ数	5.1				
本年度の課題					
1. 学生の退学・休学者数の減少に努める. 2. 教員数が減少したので，さらなる円滑な学科運営に尽力する. 3. 今後の口腔保健学科の教育のあり方を継続して検討する					
本年度の目標					
1. 早期退学者や過年度学生数の減少に努める. 2. 教員数の減少を考慮して，学科運営を効率良く円滑に行う. 3. 4年制の歯科衛生教育について検討する. 4. 論文および学会発表を行う. 目標：査読付き論文1本，学会発表3報					
主な活動内容					
1)教育活動 ・学生に関する情報を教員間で共有し，問題を抱える学生の早期発見と個別指導を重視する教育に努めた結果，早期退学者数と過年度学生数が減少した. ・教員数の減少により，教員の負担感が増加したが，個人の責任範囲を限定することにより学科運営が円滑に行えた. ・4年制の歯科衛生士教育についてWGで検討を行い，大枠で合意に至ったが，詳細な内容は今後の検討となった. ・授業評価の結果を踏まえ，学生の理解度を勘案しながら授業を実施した. また，1方向からの授業でなく双方向・参加型の授業展開を試みた結果，昨年度より学生の評価が高くなった.					
2)研究活動 研究テーマ：健康寿命延伸のための1口量決定因子に関する研究（科研採択テーマ） 研究の現状：対象者の1口量と口腔機能の測定および食行動調査を行った. 今年度，約200名の測定と調査が終了した. 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（7回）論文（0編）著書（0冊）					

3)社会的活動等
①学会活動
・日本歯科衛生学会幹事 ・日本歯科衛生学会研究倫理委員会委員長 ・日本健康体力栄養学会理事 ・日本栄養食糧学会近畿支部参与
②講演等
・平成30年神戸常盤大学公開講座（サルビア講座）講師 ・日本歯科衛生学会第13回学術大会研究討論会座長 ・平成30年度大阪府歯科衛生士会学術集会特別講演 講師 ・平成30年度神戸常盤大学附属ときわ幼稚園保護者対象講演会 講師
今後の課題
・4年制の歯科衛生教育について詳細な検討を行う。 ・学科の研究グループ体制を構築し、研究業績の向上に努める。

教員名	原 久美子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会・副委員長／保健管理センター学生相談室・室長／ 臨地実習委員会・委員長／口腔保健研究センター神戸常盤大学短期大学 部診療所・委員／				
クラス担任	3年主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなびの基礎，歯科保健指導論Ⅰ，歯科保健指導論Ⅱ，歯科保健指導演 習Ⅰ，歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ，歯科保健指導演習Ⅳ ，歯科衛生過程Ⅰ，地域口腔保健支援実習Ⅱ，診療補助実習Ⅰ，口腔保 健衛生学実習Ⅰ，口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	10.8				
本年度の課題					
1. 実験を導入する授業の効率化を図る。 2. ロールプレイの理解を深めるため、演習の事例に対するモデル回答を導入し、モ デルの解説に時間をかける。					
本年度の目標					
1. 実験体験ができる授業の効率化を図るために、学生への事前説明資料を見直し、 実験授業がスムーズに進行するようにする。 2. ロールプレイにおける歯科衛生過程の書面化方法を理解させるために、演習事例 の書面化モデルを作成し、授業を行う。					
主な活動内容					

1) 教育活動

学内： 1. 昨年度に引き続き、口腔清掃前後での自身の唾液中の細菌数を測定させ、細菌数の変動を体験させることで口腔清掃の意義の授業に繋げた。前後比較の質問紙から、細菌が増えることの実感と機器を使用した研究的要素を含む授業を楽しんでいると感じていたため、昨年度同様にこの授業方法は評価に値すると考える。

2. 実験体験授業として、洗口剤の効果について実施した。講義で聞くだけよりも実際に効果を目視できたので、濃度や作用により効果が違う事を実感でき、学生から「患者様に自信を持って指導できる」などの感想が聞かれた。今後も、この授業方法は継続したいと考える。

学外： 1. 看護職・医療職・介護職を対象に開催される第17期口腔ケア実践セミナーにおいて、「見直そうブラッシングと粘膜ケア」という時間枠で講義と演習を行い、知識と技術の向上に努めた。

2. 兵庫県が実施する「平成30年度地域ケア総合調整研修事業」の一環として、宍粟市の保健師・歯科衛生士を対象に、日頃実践されている対策の根拠を知ってもらうために、「高齢者の口腔ケア対策について」と題して、講演を行った。

2) 研究活動

研究テーマ： 1. 唾液分泌に関する研究

2. 口腔機能に関する研究

3. 授業の方法に関する研究

4. 口腔清掃補助用具の使用に関する研究

研究の現状：

1. 刺激による唾液分泌量の変化と唾液中の口腔内細菌数の変化について、N数を増加中。安静時唾液中のたんぱく質と刺激唾液中のたんぱく質の変化を分析中。
2. ①口腔周囲筋と口腔の協調動作との関連を調べる。豆を飛ばす動作が、高齢者の口腔機能のスクリーニングになるかどうかの分析中。
- ②口腔機能訓練の継続効果を検討するため、他機関と合同で高齢者に訓練を継続実施して頂き、現在分析中。
3. 学生の研究マインドを育成するために、授業に実験系の授業を導入し、その評価を質問紙調査で行い授業に反映することを目的に行っている。その結果、学生は、実験系の授業により授業内容に興味を持っていた。実施時期について質問紙調査を行ったところ、実施時期は2年次後期最初が良いという評価を得た。そこで、平成31年度は、2年次後期最初に実施する予定である。
4. 口腔清掃補助用具が普及しない要因について検討するため、ナイロン製とゴム製の補助用具を用い、材質による使用感と使用する行動の意思についての質問紙調査を行った。現在、分析中である。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（ 8 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
(1) 以下の学会・研究会委員を拝命し、学会・研究会の企画や実施に携わった。 ・日本歯科衛生学会企画委員会副委員長（社団法人日本歯科衛生士会）・日本歯科医療福祉学会評議員・日本口腔ケア学会評議員・口腔ケア研究会ひろしま副代表・日本口腔ケア学会用語委員会委員・「歯科衛生士用語辞典」編集委員（医歯薬出版株式会社）・日本健康体力栄養学会評議員・日本老年歯科医学会歯科衛生士関連委員会委員・全国大学歯科衛生士教育協議会委員
今後の課題
1. 退職者から引き継いだ科目の授業内容を精査し、より充実させる。 2. 試験の点数が取れない学生に対しての指導方法の検討。

教員名	足立 了平	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター長、利益相反マネジメント委員長、自己点検評価委員、健康保健センター健康管理室員、危機管理（災害）委員会、研究ブランディングAチーム、Sチーム員、機関リポジトリ運営会議委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療安全、健康科学総論N科、健康科学総論0科、スポーツ健康科学、人体のふしぎ、いのちの理解、臨床歯科Ⅲ、臨床検査学、災害援助と救急医療、災害時の歯科衛生士の働き、災害とまちづくり、学びの基礎、総合歯科実習、診療補助実習Ⅰ、診療補助実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	8.0				
本年度の課題					
① 研究ブランディング事業への参画 ② 学生の授業外学習時間を増加させる ③ 臨床研究の成果を授業に反映させる					
本年度の目標					
① 学生が授業外学習時間を増やさざるを得ない授業スタイルを構築する ② 研究ブランディングにおける研究活動のサポート					
主な活動内容					
1) 教育活動 災害関連および健康科学総論（0科）の授業においては、グループワークとレポート提出を義務付けたため、昨年よりも授業外学習の時間が増加した（根拠：学生による授業評価）。					
2) 研究活動 研究テーマ：1) 「災害関連死（特に肺炎）を防ぐ口腔保健の重要性についての研究」 ① 「口腔機能と全身の健康、健康寿命に関する研究」					

② 「健康格差に関する研究：口腔の健康格差」	
研究の現状：1) についてはほぼ研究が終了したため、今後は教科書の作成に取り組む。2), 3) についてはときわ病院での臨床研究を加えて、さらに明らかにしておくことが必要。ブランディング事業ともリンクすることになる。	
論文（8編：共著）、著書（2冊：共著）、学会発表（筆頭のみ：3回）	
3) 社会的活動等	
● ときわ病院歯科口腔外科部長（兼任） ● 兵庫県 8020 運動推進協議会委員（兵庫県健康福祉部健康局健康増進課） ● 神戸市歯科口腔保健推進検討会会長（神戸市保健福祉局地域保健課） ● 神戸市歯科保健推進懇話会委員（神戸市保健福祉局地域保健課） ● 兵庫県病院歯科医会会長 ● 長田区災害時医療介護提供協議会委員（長田区健康部） ● 長田区歯科医師会 学術委員 ● 全国大学歯科衛生教育協議会 教育・研究委員長 ● 日本有病者歯科医療学会 理事 ● 長田区子どものむし歯対策検討会委員 ● 講演 40 回、テレビ出演 2 回（NHK）ラジオ出演 1 回（ラジオ関西）	
今後の課題	
今年度で定年退職のため今後の課題の設定は行わない。	

教員名	柳田 学	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会副委員長、歯科診療所副所長、ときわ教育推進機構・委員、短期大学部認証評価準備委員会・委員、入学試験の出題・生物・委員				
クラス担任	2年生主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	口腔衛生学、病原微生物学・免疫学、臨床歯科I、臨床歯科II、歯科医療と法律・制度、海外研修、健康科学総論、学びの基礎、臨地実習				
担当科目コマ数	7.1				
本年度の課題					
学生の研究室訪問への対応を厳格化する。					
本年度の目標					
研究活動を進めていく。					
主な活動内容					
1) 教育活動 学生への講義、実習のみならず、学生への個別対応に積極的に対応した。					
2) 研究活動					

研究テーマ：口腔保健、歯肉線維芽細胞の機能解析
研究の現状：講義準備、学生対応に忙殺され研究にほとんど時間を割けなかったが、英論文等精読に費やす時間は昨年より確保できた。
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 5 回） 論文（ 3 編） 著書（ 0 冊）
3) 社会的活動等
日本歯周病学会評議員、近畿中国四国口腔衛生学会・幹事
今後の課題
今年度は本学赴任 2 年目であり、昨年度よりは主要な学科講義の準備に時間を割く時間は減少したが、研究活動は学会参加を除いてあまり進められなかった。オフィシャルタイムに関しては学生に周知されていないと思われるほどは学生がひっきりなしに訪れてくる。教育に重点を置く学校の職員として、学生対応は必須であることは強く認識しているが、来年度は学生対応の時間を決めて行いたい。

教員名	上原 弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	S D 委員・高大連携委員・就職委員会委員長・臨地実習委員会委員 神戸常盤大学短期大学部歯科診療所委員				
クラス担任	1 年主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、歯科診療補助演習Ⅰ、歯科診療補助演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、医療安全、臨床検査学、診療補助実習Ⅱ、地域歯科保健実習Ⅱ				
担当科目コマ数	13.7				
本年度の課題					
1) 学生の能動的な学習を引き出す授業内容の検討 2) 研究のための時間を確保する 3) 教員としての活動と社会的活動とのバランスのとれた活動を心がけ、社会的活動での経験や情報を学生教育へ反映する					
本年度の目標					
1) ・事前課題を課すことで学生の授業の理解度を深め、学生が進んで授業に参加するよう工夫する。 ・グループワークや発表を取り入れた能動的参加ができる授業をおこなう。 2) 研究日を有効に活用できるように、教育に関わる業務を整理する 3) 社会的活動では地域特性や歯科衛生士の職能に関する最新の情報を得ることができるので、授業内容の見直しを図ることに役立てる					
主な活動内容					

1)教育活動
授業前にマナバを活用して事前学習を促した。学生の取り組み状況には差がみられたが、積極的に学習をおこなった学生は授業への前向きな参加態度が見られた。プレテスト・ポストテストを実施して授業の理解度を測り、授業内容を見直していった。臨地実習科目「診療補助実習Ⅱ」では、実習中に自己の課題を見つけ、実習後に課題レポートを作成・提出させた。
2)研究活動
研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理
研究の現状：情報・資料の収集中
本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照
学会発表（1回） 論文（0編） 著書（0冊）
3)社会的活動等
【役員・委員等】
・公益社団法人兵庫県歯科衛生士会会長
・企画調整委員(公益社団法人日本歯科衛生士会)
・歯科口腔保健推進検討会委員・歯科口腔保健推進懇話会委員（神戸市）
・健康寿命延伸のための「介護予防」専門部会委員（神戸市）
・8020運動推進委員(兵庫県)
【講演】
①西市民病院市民公開講座 2018.9.5
②兵庫県保健所栄養士協議会・市町栄養士連絡協議会 合同研修会2018.9.22
③ヘルスケアワーカーキャリア学会 2018.10.8
④兵庫県立西播磨総合リハビリテーション病院口腔ケア研修 2019.2.13
【非常勤講師】
・神戸市看護大学大学院「慢性病ヘルスアセスメント」
・兵庫県立総合衛生学院看護学科全日制・定時制「老年援助論演習」
・兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科「口腔保健管理Ⅶ」
・高大連携授業 明石南高校
・阪神シニアカレッジ
今後の課題
・学生のモチベーションを高める授業方法の検討
・研究の成果を発表する

教員名	福田昌代	所属学科等	口腔保健	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、国家試験対策委員会、新学科開設準備室委員				
クラス担任	3学年Aクラス		クラブ顧問	なし	
担当科目名	歯科予防処置論B、歯科予防処置演習BⅠ・Ⅱ、歯科衛生過程演習、地域口腔保健支援実習Ⅰ				

担当科目コマ数	13.6
本年度の課題	
・国家試験対策委員長として受験者全員合格できるように取り組む。 ・現在の研究を継続し論文を投稿する。 ・新しい研究テーマでの研究をスタートする ・自己研鑽 論文1編 海外の学会発表と国内学会発表	
本年度の目標	
・国家試験合格率100%を目指す。 ・台湾での研究調査を行い、高齢者の口腔機能の現状を検討し発表する。 ・新たな、研究テーマを検討する。	
主な活動内容	
1) 教育活動 ・国家試験100%を目指し、国家試験対策委員長として学生の模擬試験結果から学習状況を把握し、個々の学生に応じた学習指導を行った。「自己評価シート」用いて、学生にも自己評価をさせ、その内容に対してコメントを行うことで、学生の学習意欲向上に役立てた。模擬試験では合格点をとれる状態まで学習成果が認められたが、残念ながら1名不合格となった。最低レベルの学習成果ではなく、余裕のある状態まで学力を高めておく必要があると改めて感じた。 ・1年次から担当している授業資料の充実を図り、予習・復習に使用できる資料の改訂を加えた。 2) 研究活動 ・昨年からの研究活動である口腔機能と口腔関連QOLとの関連性について、テーマ別研究に応募し採択された。また科研費の申請も行ったが、残念ながら不採択となった。 研究テーマ：①地域在住自立高齢者の口腔機能と口腔関連 QOL の関連性-台湾の調査-②manabaシステム利用による教育効果について、③1回嚥下量と口腔機能ならびに食行動との関連性、④足趾把持力と口腔機能の関連性、⑤バリ島在留邦人に対する患者支援システムの実態 研究の現状：上記研究テーマについて調査を行い、学会発表と論文投稿を行っている。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 5 回） 論文（ 2 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 兵庫県立明石南高等学校 高大連携授業担当	
今後の課題	
・国家試験対策では常に100%を目指す、学生が早期に学習力を獲得する方法を検討する。 ・現在行っている研究を継続し、成果については学会発表と論文投稿に努める。 ・自己研鑽	

教員名	御代出 三津子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員・学生相談室委員・臨地実習委員・口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	歯科保健指導演習Ⅳ、総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、こどもの歯と健康、学びの基礎				
担当科目コマ数	14.0				
本年度の課題					
・ 歯科診療所の利用者を増やすために多方面への働きかけを行う					
本年度の目標					
・ 歯科診療所を利用している方には予防の重要性を理解してもらう ・ 学生には現場の患者との関わりの楽しいところを知ってもらう					
主な活動内容					
1) 教育活動 歯科診療所で一般の方々のクリーニングを実施しているところを学生が見学しているが一人一人の口腔内の違いや性格の違いで反応が違ってくることを学び、口腔内への観察力や人に説明することができる能力を身につけて欲しいと考え、指導した。 本年は1年生の時に担任をしていた学生たちが卒業年度となり、就職活動の相談に多くの学生が私の部屋を訪れ、就活を支援した。					
2)研究活動 研究テーマ：歯科衛生士法の考察 研究の現状：歯科衛生士は介護施設で口腔ケアを実施しているが日常の歯磨きと同じ位置づけになっている 本年度の研究業績：詳細は巻末の「研究実績報告書」を参照					
3)社会的活動等 「むし歯予防とフッ素について」ときわ幼稚園 2018. 4. 18 「口腔ケアと嚥下障害」大阪府介護情報研修事業 2018. 10. 29 「甲子園短期大学キャリアアップ研修会」甲子園短期大学 2018. 11. 17 「健康のお口の作り方」三木市立豊地小学校・ロ吉川小学校合同保健委員会 2018. 12. 13 介護予防プログラム「口腔機能向上」蓮池ディサービス 2018. 5. 22・7. 17・11. 27 スケーリング研修会 2018. 5. 13・11. 18					
今後の課題					
新入生の歯科検診を実施して、学生たちの口腔内の問題点も見えてきているので、取り組むことができるのであれば、口腔に関心を持つような働きかけを考え、生涯を通して自分の歯を大切にいくことを学んで欲しい。					

教員名	澤田 美佐緒	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、個人情報保護委員、臨地実習副委員長				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学びの基礎 オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、 診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅰ				
担当科目コマ数	15.5				
本年度の課題					
教育活動：学生が能動的に学ぶ姿勢を持つように授業方法を工夫する					
研究活動：多職種連携するための授業の調査についてまとめ、発表する					
本年度の目標					
教育活動：授業中に発問をして、学生自ら疑問を持ち、考えるよう展開する					
研究活動：質問紙調査を分析し、学会発表を行う					
主な活動内容					
1) 教育活動 ただ聞いているだけの授業にならないよう、発問をしながら授業を行い、学生自身が考えて理解し、授業の要点を意識するようにした。また、学生自身の学習時間が増えるよう事前課題も提供したが、授業外に学習した時間は、平均より少ない結果となった。「わかった」「できた」という感覚を得ることが興味を持つことに繋がるので、学生が理解困難なことを明確にして、さらに能動的学習指導へと結び付けたい。					
2) 研究活動 研究テーマ：多職種と連携して要介護者口腔機能管理を実践する技術習得方法の検討 研究の現状：授業前後で実施した質問紙調査をまとめ、発表した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 ①太成学院歯科衛生専門学校 非常勤講師 「高齢者歯科学」 ②「口腔ケア研修」兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター 2019. 2. 13 ③宝塚市地域包括ケアシステム研究会への参加 ④神戸市オーラルフレイル対策事業 2018. 10. 7, 2018. 11. 25					
今後の課題					
教育活動：学生が学ぶ楽しさを実感し能動的な学習へと向かう方法を検討する					
研究活動：多職種連携するための卒前教育について検討を継続する					

教員名	破魔 幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会委員、合否判定部会委員、神戸常盤地域交流センター委員、臨地実習委員会委員				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）、歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）、歯科予防処置演習AⅠ（う蝕）、歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）、口腔保健衛生学実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅱ				
担当科目コマ数	14.1				
本年度の課題					
・教授について 学生の意識改革はおこない、学修意欲は高めているが、定着に結びつかない。教員の支援が常に必要とされ、依存度の高さも否めない。定着させるためには、学生自身の本質に働きかける必要性があり、支援に頼るのではなく、学生自らが意識改革をおこすレクチャーを考えなくてはならない。 ・研究について 研究の新たな課題がみえたところから、研究テーマについての見直しを行っている。上記の学生の意識改革につながるための研究としていく予定である。調査方法を変更するため、新規の調査に取り掛かる。研究デザインの再構築を開始する。					
本年度の目標					
・教授について 学生の意識に刺激を与える工夫をする。技術の修得は、単調に練習するのではなく、競い合わせたり、ゲームのように時間制限を付けて行くと上達に効果がみられるので、学生同士のラーニングにも繋げて実施する。 ・研究において 研究テーマは、研究目的の社会貢献度（大学への貢献度）を考え、目的をしぼり、研究計画を実施可能な状態で具体的に計画する。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
教授について					
学生の意識に刺激を与える工夫をした。時間制限を付けて測定を何度かおこない、自己評価させる。その評価をもとに、学生同士でレクチャーする時間を設けて、再度チャレンジをおこなう。その結果、技術の修得に効果がみられた。また、集中力を切らさず学修させるため、休憩時間を細かく取り、ストレッチでリフレッシュ（クールダウン）させたのち、歯科衛生士職について学ぶ時間を設けた。					
2)研究活動					
①研究テーマ：教育における自己肯定感への影響や効果					
研究の現状：発表を行った。（神戸常盤フォーラム）					
②研究テーマ：青年期における親子間の信頼感					
研究の現状：研究計画より、調査に進む予定である。					

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3)社会的活動等 特になし
今後の課題
・教授について 学生自らが学修に対して意識改革をおこすレクチャーは引き続きおこなう。さらに、 歯科衛生士職について、関心興味を強める効果のある授業に改善していきたい。 ・研究について 研究テーマについての見直しは行ったが、社会貢献度で考えると効果が薄い。研究調 査を優先ではなく、研究の目的を明確にし、新規の調査に取り掛かる。研究デザインの 再構築を開始する。

教員名	畑山千賀子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会 国家試験委員会 臨地実習委員会				
クラス担任	1年生A組		クラブ顧問	なし	
担当科目名	歯科予防処置論 歯科予防処置演習A 1 歯科予防処置演習A2 歯科予防処置演習B1 歯科予防処置演習B2 歯科衛生過程Ⅱ 総合歯科実習 地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	12.8				
本年度の課題					
・学生の意欲を向上させ、目的意識を明確にする授業展開を行う。					
本年度の目標					
・学生の論理的思考の構築 ・研究に取り組む					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・授業プリントに工夫を凝らし、自ら学習できるよう授業づくりを行った。 ・授業の振り返りを毎回行い、理解度の確認を行うように心がけた。 ・学生の理解度を確認するため、定期的に確認試験を行い、フィードバックを行った。					
2) 研究活動					
研究テーマ：「自立高齢者の口腔機能と体力との関連～日本と台湾の比較縦断研究～」 「健康寿命延伸のための1口量決定因子に関する研究」 「子どもの歯・口の健康づくりに関する研究」					
研究の現状：					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 1 冊）					

3) 社会的活動等
・研究を学外で行うことにより、ネットワークを広げ、深めることができた。
今後の課題
・学生の論理的思考を構築できるような授業展開を行う。

教員名	中村 美紀	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会、臨地実習委員会				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅱ、歯科診療補助実習Ⅲ、 オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、 診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅰ、学びの基礎、 キャリア基礎、まなぶる▶ときわびとⅠ				
担当科目コマ数	18.0				
本年度の課題					
平成30年度より在籍のため、なし					
本年度の目標					
平成30年度より在籍のため、なし					
主な活動内容					
1) 教育活動 本学以外での活動なし					
2) 研究活動 研究テーマ：小児がん患者における周術期口腔機能管理 研究の現状：徳島大学大学院博士後期課程にて論文執筆中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 2回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 平成30年10月：小児がん患者の保護者に対し健口教室を実施					
今後の課題					
教育においては、主担当を務めた診療補助演習Ⅰの学生による授業評価にて授業方法の評価が学科内平均より下回っていたことが課題として挙げられる。今後は学生のペースに合わせた授業展開の確立と、それに対しても理解が遅れがちな学生に対する支援が重要と考えられる。研究においては、研究に費やす時間の確保が課題として挙げられる。今後は研究環境の整備、研究状況の可視化と報告等を自らに課す必要があると考えられ					

る。社会活動においては、研究の更なる発展のためにも新たな社会活動の場を拓けることが課題として挙げられる。今後は他職種も含めた新たな連携の促進や、積極的な地域参加等が必要と考えられる。

教員名	伴仲 謙欣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学術推進課、広報委員、遺伝子組換え安全委員、KTU研究開発推進センター員、ときわ教育推進機構員、研究倫理委員、I Rユニット員、ライフサイエンス研究センター員、国際交流センター員、地域交流センター員、I R推進ユニット、利益相反マネジメント委員、研究ブランディングAチーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	現代社会学、教育社会学、地域との協働A、まなぶる▶ときわびと I II 学びの基礎、安全学				
担当科目コマ数	5.6				
本年度の課題					
教員配属初年度のため該当なし					
本年度の目標					
教員配属初年度のため該当なし					
主な活動内容					
1) 教育活動 授業担当初年度における各授業の下準備と実践を行った。教育方法として、可能な限りアクティブラーニングを取り入れ、学生の主体性を誘発することを意識した授業展開を行った。「まなぶる▶ときわびと」においては、全体の授業準備（Ⅱ）と次年度の授業コンテンツ作成（Ⅰ・Ⅱ）を担当した。					
2) 研究活動 研究テーマ：【教育効果の可視化】【専門職養成大学における（初年次教育を含む）教養教育のあり方】 研究の現状：取得可能な授業データを元にした教育効果の検証。研究ブランディング事業における地域研究に共同研究として参画。科研費へ初申請。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（1回：ポスター） 論文（1編） 著書（0冊）					
3) 社会的活動等 兵庫県歯科衛生士養成機関専任教員協議会において、本学の教育改革に関する講演を行った。					
今後の課題					

①教授法における「学生に何を教えたか」から「学生が何を学んだか」へのパラダイム転換を進めたい。②研究テーマの継続と、新たなテーマの開発

教員名	東 麻夢可	所属学科	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会委員、国家試験対策委員会委員、就職委員会委員、玉田学園創立110周年事業記念誌制作部会				
クラス担任	2年Bクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、診療補助実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	9.3				
本年度の課題					
・講義科目担当に向けての活動 ・研究活動の継続 ・演習科目の内容見直し ・学位取得に向けての活動 ・学生主体の活動のサポート					
本年度の目標					
・講義科目の聴講 ・研究成果の発表と論文作成 ・講義～演習科目間の流れに沿った内容改善 ・大学での特別講義や研修会への参加 ・授業前後の学修やレポート内容の改善					
主な活動内容					
1)教育活動					
講義科目と演習科目の関連による学修内容の充実化、学生の理解度の向上を図るため、担当者と情報共有を行い、授業内容やレポート内容の改善を行うことで、歯科保健指導関連科目全体としての流れを構築した。					
2)研究活動					
研究テーマ：①豆とばしにおける豆の飛距離に影響を与える口腔機能の検討					
②歯間ブラシの定着率に影響を与える因子に関する研究					
③歯科関連の調査データをもとにした大規模疫学調査研究					
研究の現状：①平成29年度テーマ別研究費獲得、第7回神戸常盤学術フォーラムで報告					
②平成30年度テーマ別研究費獲得、第8回神戸常盤学術フォーラムで報告予定 ※一部成果を第9回日本歯科衛生教育学会学術大会で報告(2018.12)					
③倫理委員会申請中					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3)社会的活動等					
常盤女子高等学校サマーオープンスクール公開講座・体験授業、高大連携講座（神戸鈴蘭台高等学校）、KOBETOKIWA 健康ふれあいフェスタ、第 25 回日本歯科医療福祉学会大会および総会 開催校					

今後の課題
・学生の主体的な活動、学修の支援 ・学位取得に向けての活動 ・学生が考える力を育むための授業方法の検討 ・研究活動の継続

教員名	横山 麻衣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助手
委嘱委員・職務	国家試験委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	学びの基礎、災害時の歯科衛生士の働き、歯科診療補助演習Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、臨地実習（診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅰ）				
担当科目コマ数	－				
本年度の課題					
平成 30 年度在籍のため、特になし					
本年度の目標					
平成 30 年度在籍のため、特になし					
主な活動内容					
1) 教育活動 特になし					
2) 研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 特になし					
今後の課題					
昨年度は研究業績が残せなかったため、今後は研究テーマを選定し、研究に費やす時間を確保する必要があると考える。また、最低でも年 2 回は学会発表を行うことを課題としたい。					

5. 短期大学部 看護学科通信制課程 個人年間活動報告書

教員名	金川 治美	所属学科等	看護学科 通信制課程	職名	教授							
委嘱委員・職務	通信教育委員 自己点検評価委員（副委員長） 臨地実習委員 短大認証評価準備委員											
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし									
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習											
担当科目コマ数	授業時間数 180時間											
本年度の課題												
・ アセスメント能力向上のための教育方法の工夫（学生の達成度の差の改善） ・ 継続看護における家族看護の在り方に関する研究の遂行												
本年度の目標												
・ 学生間の達成度の差が縮小する。 ・ 継続看護における家族看護の在り方に関する研究の遂行												
主な活動内容												
1) 教育活動 授業評価では、総合評価4.8で昨年度と同じであった。授業の進行速度の問題に対しては、授業内容を見直し順番の整理をすることで進行速度にゆとりを持たせた。理解しにくい内容では具体例などを提示し速度の速さが気にならないよう工夫をした。今年度の進行速度に対する評価は4.3と上がっていた。「学生自身」については「シラバスを読んで授業に臨む」が他の質問に比べて低く、3.7であった。授業を受ける前の準備に関してが工夫すべき問題と思われる。 実習スクーリングでは学生の理解度を確認する時間を設け、その都度補足説明を加える等の工夫を行った。授業時間的にはタイトであったが、最終評価の差は昨年に比べて10項目中8項目で小さくなった。又、通信制課程内FD活動でループリックの活用について検討し成人看護学実習（成人看護学演習内容を含む）に関するループリック評価表を作成した。次年度は実習オリエンテーションで学生に説明し、実習前に科目の学習目的・目標を明確に認識させることで到達度の格差を改善できると考えている。 2) 研究活動 研究テーマ： 1. 看護師2年生課程（通信制）における教育の在り方 2. 継続看護システムの構築 研究の現状： 1. 看護師2年生課程（通信制）における教育の在り方では入学生を対象に入学時の技術経験と判断力を調査した。学術集会にて発表予定。2については進んでいない。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 1 冊） 3) 社会的活動等 なし												

今後の課題
・ ルーブリック評価表を活用し、学生の最終到達度を向上させる。 ・ 看護師 2 年生課程（通信制）における教育の在り方では「技術経験と判断力」の刑事的变化を調査し、教育内容に還元する。

教員名	中野 順子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員、国際交流センター委員、自己点検評価委員、 臨地実習委員会（通信）委員長、短大認証評価準備委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				
担当科目コマ数	授業時間数 180時間				
本年度の課題					
・ 論文投稿・学会発表の実施と科研費申請の再挑戦への取り組み ・ 授業の内容・方法の組み立ての検討と学生が主体的に学ぶための工夫の継続 ・ 准看護師7年経験の入学者への添削指導の表現の検討					
本年度の目標					
・ 論文投稿・学会発表・科研費申請のいずれかを達成する ・ 学生が主体的に学ぶ為に具体的方策を取り入れた授業を実施する ・ レポート課題の提出内容の難易度を考慮し表現を変更する					
主な活動内容					
1)教育活動					
・ 助成金獲得の上で研究を開始し8月終了し冊子にまとめ報告した。常盤学術フォーラムで口頭発表した。日本在宅ケア学会発表の抄録を提出し受理された。 ・ 授業への取り込みでは、時計を用い個人思考の時間や互いに話し合う時間を設け発表へと繋げ、授業への積極的参加を図った。引き続き効果的な方法や時間を検討し今後も取り入れていく。 ・ レポートの文献表記や形式的な内容について、難易度を幾分下げ、参考文献の正しい表記が出来るよう文章を変更し、レポート添削でコメントするよう心掛けた。 ・ その他の活動では、異文化交流（ネパール）で通信制学生の研修参加に伴うプレゼンや報告内容で教育的関わりを持ち指導した。自身も派遣団に引率者として同行した。					
2)研究活動					
研究テーマ： 在宅における訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の実態調査及び分析 研究の現状：勇美記念財団在宅医療助成金を得て、前年8月より研究開始し本年8月終了し、冊子にまとめ報告した。論文投稿に向けた取り組みを継続する。					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 1 冊）					
3)社会的活動等					
・ 国境なき医師団、ユニセフ マンスリーサポートの継続の実施					

今後の課題
・冊子でまとめた報告書を論文投稿し、科研費申請に早期より再チャレンジする ・今年度取り入れたルーブリック評価表を活用し、学生の学習到達度を向上させる

教員名	山岡紀子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数：180時間				
本年度の課題					
1. 学生の個性にできる限り配慮した教育方法の追究・実践。 2. 新たに設定した研究テーマより立案した研究計画の実施。					
本年度の目標					
1. 可能な限り個別指導を充実させて、学習進捗がうまくいかない学生をフォローする。 2. 新たな研究に着手し、データ収集と整理を進める。					
主な活動内容					
目標1.（教育活動） テキスト科目：小児援助論および小児看護学演習のレポート添削指導および事後指導 ①添削指導のコメントは、学生の理解度や個性に応じた内容および文章表現とした。 ②レポート作成や提出が進まない学生への電話相談を実施。 スクーリング科目：小児看護学概論（春期および秋期、3会場にて4回） 小児看護学実習（実習スクーリング3日間×4回） ③春期概論Sは、受講票の自由記載内容と授業評価結果を反映させて秋期Sを実施 ④実習Sでは昨年に続き個別指導を強化し、学生の特徴に適した指導方法を実施 国家試験対策：国試対策オリ、学習説明会、模試、講座、学習相談会、電話相談等 ⇒授業評価は今年度も全カテゴリーにおいて学科平均を上回り、①～④のとおり今年度実行可能な取り組みは実施できたため、目標はほぼ達成できたと考える。					
目標2.（研究活動） 研究テーマ：極および超低出生体重児の18か月頃の行動と幼児期後期の発達特徴との関連の検討[平成30～32年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究代表者] 研究の現状：データ収集・整理。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（3回：国内2・国際1、全て筆頭） 論文（0編） 著書（0冊） ⇒収集したデータは全て整理できたため、今年度の目標は達成できたと考える。					
3)社会的活動等 神戸市総合児童センター・神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター「極低出生体重児とその家族のための子育て支援教室 YOYO クラブ」（今年度16回参加）					

今後の課題
教育：引き続き学習進捗が芳しくない学生の個別指導を充実させる。
研究：データ数を増やし、整理後に統計解析を実施する。

教員名	丸岡洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会委員、CCN臨地実習委員会副委員長 通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、看護過程、看護過程演習、基礎看護学演習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間 180時間				
本年度の課題					
本年度着任のため課題設定なし					
本年度の目標					
1. 臨地実習委員、教務担当としての職責を果たす。 2. 学生が自身の成長を実感できる授業の工夫と、学習サポートを行う。					
主な活動内容					
1) 教育活動 目標1：教務担当として学習支援を行ってきたが、生じた問題への対応に迫われ、学生の状況を捉え、問題を予測した計画的な取り組みではなかった。臨地実習委員としては、多岐にわたる調整についての理解不足が原因で主体的な動きができず、委員長を補佐するに至らなかった。本年度の活動を評価し、計画的な取り組みを次年度の課題とする。 目標2：スクーリング科目においては、准看護師の経験から看護の現象がイメージできるという強みを活用し、事例を用い看護実践とリンクさせながら展開した。学生の評価では看護過程への苦手意識の緩和や、対象の個別性を踏まえた援助を考えることの理解の深まり、面白さを実感したという反応を得ることができた。しかし基礎看護学実習に学びを繋げていくという点では教授方法の工夫が課題として残る。					
2) 研究活動 研究テーマ：教材研究 通信課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容 研究の現状：本年度学生のレポートを整理中 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 兵庫県看護協会教育企画委員 関西広域連合准看護師試験委員 播磨看護専門学校非常勤講師 看護学概論（看護倫理）：15 時間、関係法規：15 時間 丹波市立看護専門学校非常勤講師 看護学概論（看護倫理 8 時間）					

今後の課題
① 学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。
② 担当科目間のつながりを考慮し、学生が理解でき意欲的に学習できるよう、教授方法を工夫する。

教員名	小坂 素子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	通信教育委員会、臨地実習委員会、国試対策委員 ハラスメント防止対策委員会副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間 180時間				
本年度の課題					
1. 効果的な授業の実践のために、他の教員の授業の聴講や研修参画の成果を、授業計画に活かす。					
2. 研究をまとめるに当たって、必要な統計学の知識を補完する。					
本年度の目標					
1. 他の教員の授業の聴講や研修参画の成果を明らかにして、効果的な授業計画に繋げる。					
2. 継続中の研究に統計学が活かせる。					
主な活動内容					
1)教育活動：スクーリング：母性看護学概論（計4回）、母性看護学実習（計4回） レポート添削指導：母性援助論、母性看護学演習					
2)研究活動					
研究テーマ：短期大学看護学科2年課程（通信制）における母性看護学臨地実習 グループワークでの学生の気づきと学び ―記録内容から―					
研究の現状：学生の気づきと学びを記録から整理を行っている途中である。					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3)社会的活動等					
公益社団法人 日本助産師会：代議員					
西宮市健康フェア：女性の健康相談					
姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」 講師					
今後の課題					
1. 授業計画を見直し、効果的な授業が実践できる。					
2. 研究を行うための自己研鑽を行う。					

教員名	玉村 由紀	所属学科等	看護学科通信制糧	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員・個人情報保護委員・兵庫県看護協会連絡係 課程内入試委員				
クラス担任	な し		クラブ顧問	な し	
担当科目名	老年看護学概論、老年援助論、老年看護学演習、老年看護学実習 災害時の歯科衛生士の働き（6 コマ）				
担当科目コマ数	授業時間 180時間		+6 コマ		
本年度の課題					
①国試の出題基準の変更に伴い教科書が大幅に改定されているので、新しい教科書に沿った授業内容の見直し、資料の作り直しが必要となっている。 ②入学要件の変更による入学者の増加の効果は今年のかぎりとなり、今後入学者の減少が予測されるため、定員以上の入学者獲得には、より一層の広報が必要となっている。					
本年度の目標					
①スクーリング科目の老年看護学概論の資料を、学生に理解しやすく作成する。 ②学生へのきめ細かな支援、指導を行うことにより、学生からの広報につなげる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ①老年看護学概論の資料は、予想したより改定が大幅であったことでどの部分にポイントを絞るのかに迷い、時間を要した割には学生にとって解りやすいという内容にはならなかった。老年看護は2025年問題を鑑み今後も制度の変更や研究が進むことによる考え方の変更等があると予測されるため、新しい情報を収集し発信してゆく必要があると考えている。 ②学生をエリヤ別に分け担当教員が配置された。担当学生に電話等で連絡をとり学習の進捗状況確認や国試に向かう姿勢などの確認、激励を行った。今年度始めたばかりであるためまだ広報には繋がらないが、これを継続することで広報の効果はあると考える。					
2) 研究活動 研究テーマ： エンド・オブ・ライフケア 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 今年度は、研究に時間をさけず殆ど進んでいない。 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 なし					
今後の課題					
①老年看護学概論スクーリング科目の老年看護学概論の教科書が、再改訂となっているため新たに資料を作り直しが必要となっている。 ① 生へのきめ細かな支援、指導を継続し、受験生の広報につなげる。					

教員名	松原 渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会、広報委員会、危機管理（災害）委員会、看護学科通信制課程 臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間 180時間				
本年度の課題					
・ 授業内容の中で学生が主体的に興味をもって参加できる授業方法を工夫する。 ・ 研究テーマを論文にまとめることができる。 ・ 委嘱されている委員の各役割を報告、連絡、相談しながら、大過なく遂行できる。					
本年度の目標					
・ わかりやすい授業を展開できる ・ 修士論文を仕上げる ・ 学内、学外の多くの役員役割を大過なく努める					
主な活動内容					
1) 教育活動 相変わらず、授業評価は総合点で学科内平均より全ての項目を通して低かった。早口で思いつき、まとまりのない発言があったことが要因の一つと反省する。しかしコメントを読めば一部の学生から面白かったなどの記載や、卒業生から楽しく勉強でき無事、国試も合格できたといわれた面もある。通信制課程では初めての金沢会場で機器の不慣れな面があったが、滞りなく実践できたと思う。					
2) 研究活動 研究テーマ： 精神科医療現場における「暴力・暴言」問題の多層的検討 ―暴言や罵声を受けた看護師の感情経験と対処を中心に― 研究の現状：兵庫教育大学大学院 教育コミュニケーションコースで口頭試問を受け提出、修士論文発表会で発表する 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 編） 著書（ 0冊）					
3) 社会的活動等 ・ 入試委員会、広報委員会、危機管理（災害）委員会等の活動は他の科との先生との交流にもなる。一方、災害に見舞われ公共交通機関が麻痺している状況のなかで危機管理委員としての役割が果たせず反省する。兵庫県看護協会神戸西部支部代表補佐として種々の研修活動や看護実践報告会などの企画・運営、参加協力ができた。					
今後の課題					
・ 一方通行的ではなく授業中に発問を1コマに3回はすることができる ・ 本年度の研究テーマを一つ、挙げて研究に取り組むことができる ・ 委嘱されている委員の各役割を報告、連絡、相談しながら、大過なく遂行できる					

教員名	西森有理子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員・図書紀要委員・通信教育委員・CCN臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数 180時間				
本年度の課題					
本年度の入職のため課題設定なし					
本年度の目標					
1. わかりやすい授業をめざして、課程内FDの一環として取り組む授業方法の研修会に参加し、その学びを後期の授業や実習スクーリングに活かす。					
2. 委嘱された委員会での責務を果たす。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
目標1：授業では、在宅看護がイメージできるようDVDの活用や教員の体験など加えるように努めた。課程内FDの一環として、授業方法の研修会に参加し、後期の実習スクーリング、概論スクーリングに活かすことができた。ワークシートの作成によって、主体的にグループワークに取り組めるよう工夫した。「グループワークは自分の成長につながる」という意見もあり概ね好評であった。授業評価での授業方法の項目は、前期4.2→後期4.4と大きな変化はみられなかった。「資料の字が小さい」などの意見もあり、教材の改善は引き続き次年度の課題である。					
目標2：SD委員・図書紀要委員として、課程会議での報告、相談を行い、FD委員会としての課題にCCNの教員と協力して取り組むことができた。CCN臨地実習委員、在宅看護論実習担当者として、各エリアにおける訪問看護ステーションへの訪問（23施設）を行い、CCNの学生に対する思い、広範囲にわたる実習施設開拓の大変さを実感した。					
2) 研究活動					
研究テーマ：教材研究－通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容					
研究の現状：本年度学生のレポートを整理中					
本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等					
・ 特養かわち野里ながせボランティア					
・ ユニセフマンスリーサポート					
今後の課題					
1) 初めて学ぶ「在宅看護論」に興味をもって学べるよう、教材や発問を工夫する。					
2) 委嘱された委員会での責務を果たす。					